

marantz® AV Surround Receiver
NR1501

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 本機の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落し込んだり、水を入れないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにしてください。電源コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。電源コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、本機を落したり、キャビネットを破損した場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグをコンセントから抜く

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 本機に付属している電源コードのみ使用してください。他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。電流容量などの違いにより火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場や窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

警告

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみです。電源周波数は 50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- 本機の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があけてあります。次のような使い方はしないでください。
  - 本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  - 本機を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
  - 本機の上に物を置く。
- 本機の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。
- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- エアコンの下に置かないでください。エアコンから水滴が滴下した場合、汚損・故障・火災・感電の原因となります。

分解禁止

- 本機の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注意

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所や湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動のある所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 次のような異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
  - 窓を閉めきった自動車の中
  - 直射日光が当たる場所
  - 火や暖房器具など熱を発生する機器の近く
- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

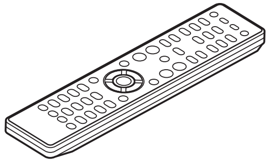
- 5 年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

この度はマランツ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになった後は、「保証書」とともに大切に保管してください。

付属品の確認

ご使用の前に下記の付属品がそろっていることをご確認ください。

- リモコン……1個



- 電池（単4）……2個
- 電源コード……1本
- AMアンテナ……1個
- FMアンテナ……1個
- マイクロフォン……1個
- 取扱説明書（本書）……1冊
- 保証書（箱に貼付）……1枚

目次

本機の特長

HD オーディオデコーダー搭載

本機には、以下のような最新のデジタル・サラウンド・サウンド・デコーディング・テクノロジーが搭載されています。詳細は、「サラウンドモード」（56 ページ）を参照ください。

- Dolby True HD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital、Dolby Digital EX
- DTS-HD（Master Audio, Hi-Resolution Audio）
- DTS、DTS ES、DTS Neo:6、DTS 96/24
- Dolby Pro-Logic IIx

オートセットアップシステム

付属の高性能マイクを使って、スピーカーの特性とリスニングルームの特性を測定したデータを、高性能 DSP にて分析、演算処理を行ない、リスニングルーム全体を最適な視聴環境になるように、周波数特性を補正するオートセットアップ機能を搭載しました。

7 チャンネルディスクリートアンプ

同一パフォーマンスのワイドレンジのディスクリートアンプを 7 チャンネル採用。

HDMI 端子の搭載

最新の Ver1.3a に対応した HDMI 用 IC の搭載により、映像面では Deep Color や x.v.Color 規格の映像の伝送に対応し、音声面では Blu-ray Disc や HD DVD で採用されている「Dolby True HD」、「DTS HD」「Dolby Digital Plus」に対応しています。

ビデオコンバーター搭載

フルデジタル処理による映像信号のアップコンバーター（コンポジット／コンポーネント→ HDMI）を装備しました。

広帯域コンポーネントビデオセレクター

コンポーネントビデオ信号に対して入力を 3 系統、出力を 1 系統設けました。ハイビジョン信号等の広帯域（80MHz（– 3dB））な映像信号に対応します。

設置の自由度を高める薄型設計

マルチチャンネル AV レシーバーとしては薄型にすることにより、限られたスペースでの設置が可能となっております。

その他の特長

- 32bit最新DSPを搭載
- 各種設定を TV画面にて行える OSDメニューシステム
- プリセット機能付きリモコン
- 環境に配慮した低消費電力スタンバイモード
- フロントパネルにカーソルボタンを搭載
- デジタルオーディオプレーヤー等 3.5 φ ステレオミニジャックで接続できる AUX1入力端子をフロントパネルに装備

ご使用の前に

ご使用いただく電源電圧・周波数

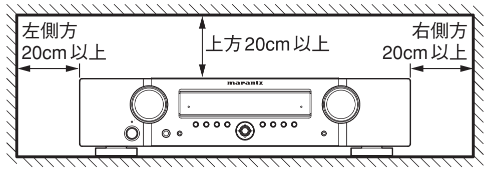
- 電源電圧は、交流 100Vをご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz地域または 60Hz地域でご使用できます。

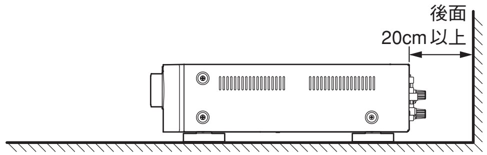
設置についてのご注意

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所
- アンプ等の発熱の多い機器の上

放熱のため、本機を下図の通りに壁や他の機器等から離して設置してください。





上に物をのせない

本機の上に物をのせて放熱を妨げると、事故や故障の原因になります。

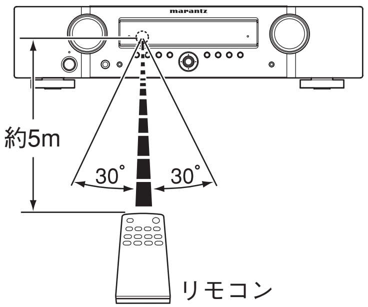
高温注意

使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外の部分は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。
特に高温注意マークのある面及びその周辺は高温になりますので絶対に触れないでください。

リモコンの使用について

リモコンの動作範囲

リモコンによる本機の操作可能範囲は下図のとおりです。



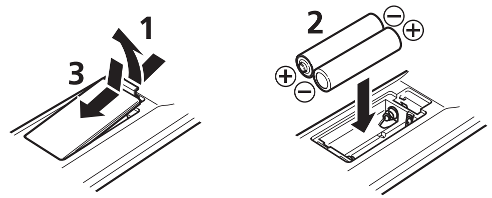
使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。 リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させせることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンを最初にご使用になる前に、リモコンに電池を入れてください。
付属の電池はリモコンの動作確認用です。

1. 電池カバーをはずします。
2. 電池を極性表示（⊕プラスと ⊖マイナス）に注意し、表示通りに正しく装着します。
3. 電池カバーを元に戻します。



各部の名称

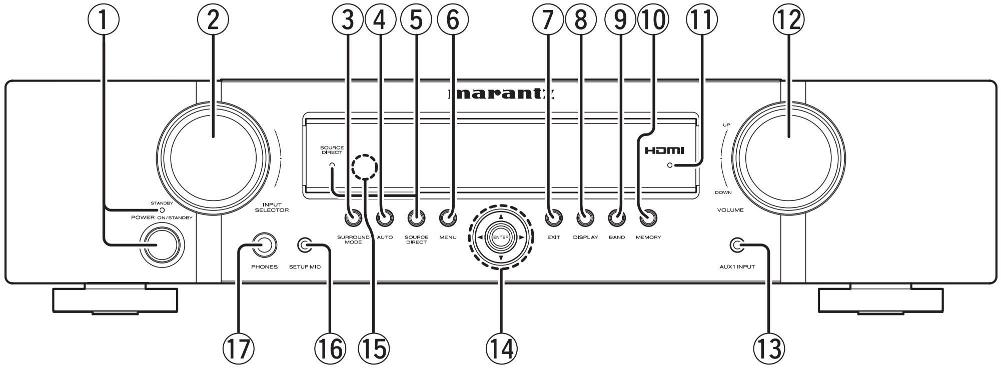
電池の取扱いについて

電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 電池のプラス ⊕とマイナス ⊖の向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- 電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますので、指定以外の電池は使用しないでください。 また、新しい電池と古い電池を混ぜたり、種類の違う電池を混ぜたりして使用しないでください。
- 電池は充電しないでください。
- 電池はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- 電池は金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。
- 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しない時は、電池の液もれを防ぐために電池を取り出しておいてください。もし、電池が液もれを起こした時は、素手で液にさわらずに、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って液が付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。
- 電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

> - 不要になった電池を廃棄する場合は、テープなどで絶縁をし、お住まいの地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
> - 電池は火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車内、熱器具の近くなど高温の場所に置かないでください。

前面



① POWER ON/STANDBY ボタン STANDBY インジケーター
このボタンを押すと電源が ON し、もう一度押すと電源が OFF します。ボタンが ON 状態では、付属のリモコンで電源を ON/OFF することもできます。リモコンを使って電源を OFF したスタンバイ状態のときには、スタンバイインジケーターが点灯します。（12 ページ参照）

② INPUT SELECTOR つまみ
入力ソース機器を選択するときに使います。
（12 ページ参照）

③ SURROUND MODE ボタン
このボタンを押すと、サラウンドモードが切り替わります。

④ AUTO ボタン
このボタンを押すと、オートサラウンドモードになります。
このモードを選択すると、本機は入力信号に対応するサラウンドモードを自動的に選択します。
（26 ページ参照）

⑤ SOURCE DIRECT ボタン・インジケーター
このボタンを押すと、トーンコントロール回路などをバイパスする「ソースダイレクト」モードになります。ソースダイレクトモードを解除するには、本体の SOURCE ダイレクトボタンを再び押します。

⑥ MENU ボタン
このボタンを押すと、OSD メニューシステムが起動します。（16 ページ参照）

⑦ EXIT ボタン
このボタンを押すと、OSD メニューシステムを終了します。

⑧ DISPLAY ボタン
このボタンを押すと、表示部のディスプレイモードを切り替えることができます。（25 ページ参照 ）

⑨ BAND ボタン
このボタンを押すと、チューナーの FM と AM が切り替わります。

⑩ MEMORY ボタン
このボタンを押すと、チューナーに周波数をプリセットする、番号を入力する、または放送局名を入力することができます。（28 ページ参照）

⑪ HDMI インジケーター
本機が HDMI 入力信号をデコードしているときに点灯します。

⑫ VOLUME つまみ
全体的な音量を調整します。このつまみを右に回すと音量が大きくなります。

⑬ AUX1 INPUT 端子
ポータブルオーディオプレーヤーなどの接続に使用できます。

⑭ カーソル(◀ / ▶ / ▲ / ▼) ／ ENTER ボタン
このボタンを押すと、OSD メニューシステムおよび AM ／ FM チューナーの操作ができます。

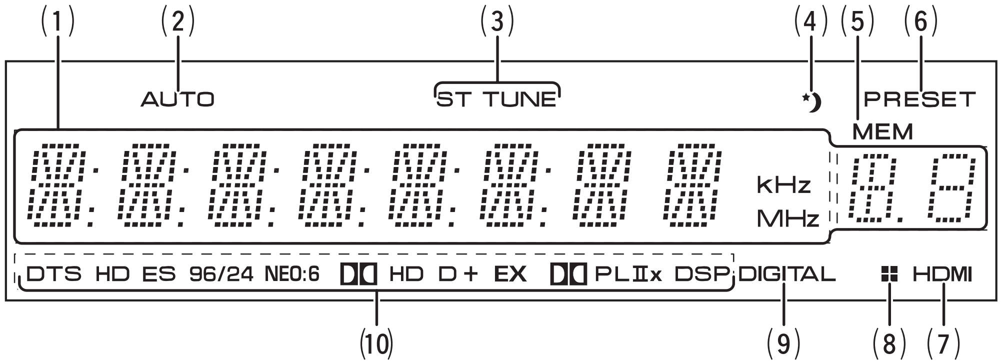
⑮ リモコン受光部
リモコンの赤外線信号を受信します。

⑯ SETUP MIC 端子
付属のマイクを使用して、スピーカーの特性を自動的に測定および補正することができます。
（21 ページ参照 ）

⑰ PHONES 端子
ヘッドフォン用の接続端子です。この端子にヘッドフォンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。（27 ページ参照）

各部の名称

表示部



(1) メインインフォメーション表示

入力ファンクション、サラウンドモード、ボリュームや受信周波数等を表示します。

(2) AUTO インジケーター

AUTO SURROUND（オートサラウンド）モードが選択されているときに点灯します。

(3) TUNER インジケーター

ST： FM 放送をステレオで受信しているときに点灯します。
TUNE： 放送を受信しているときに点灯します。

(4) *) インジケーター

本機のスリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。

(5) MEM インジケーター

チューナー操作で MEMORY 機能が動作しているときに点灯します。

(6) PRESET インジケーター

チューナー操作で PRESET モードで選局しているときに点灯します。

(7) HDMI インジケーター

HDMI 入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(8) ■■ インジケーター

ディマー機能を使用して表示部が消灯（ディスプレイオフ）状態のときに点灯します。

(9) DIGITAL インジケーター

デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(10) SIGNAL FORMAT インジケーター

DTS
dts 信号が入力されているときに点灯します。

DTS HD
dts-HD 信号が入力されているときに点灯します。

DTS ES
dts-ES 信号が入力されているときに点灯します。

DTS 96/24
dts-96/24 処理が施された dts 信号が入力されているときに点灯します。

NEO:6
音声が DTS NEO:6 で出力されているときに点灯します。

DD HD
ドルビー True HD 信号が入力されているときに点灯します。

DD D
ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

DD D＋
ドルビーデジタルプラス信号が入力されているときに点灯します。

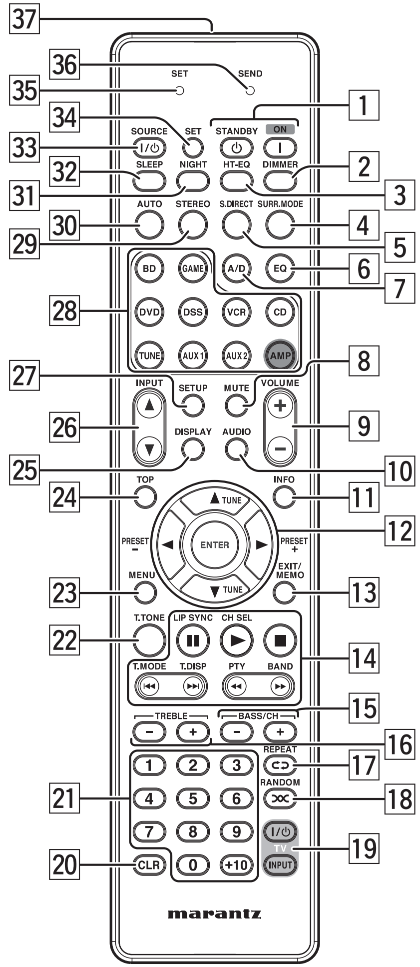
DD D EX
ドルビーデジタル EX 信号が入力されているときに点灯します。

DD PLⅡx
音声がドルビープロロジック Ⅱx で出力されているときに点灯します。

DSP
音声が VIRTUAL または Multi Ch Stereo モードで出力されているときに点灯します。

リモコン

このリモコンは本機と赤外線受光窓の付いているマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーおよび DVD プレーヤー、チューナーなどをコントロールすることができます。リモコン操作によりコントロールできる内容が異なる場合もありますので、組み合わせる機器の取扱説明書も参照してください。



1 ON I / STANDBY ⏻ ボタン

（アンプモード選択時）

本機の電源をオン／オフするときに押します。

2 DIMMER ボタン

本機の表示部の輝度を暗くするときに押します。

3 HT-EQ ボタン

（アンプモード選択時）

HT EQ（ホームシアターイコライザー）を選択するときに押します。

4 SURR. MODE ボタン

サラウンドモードを選択するときに押します。

5 S.DIRECT ボタン

ソースダイレクトを選択するときに押します。

6 EQ ボタン

Room EQ モードを選択するときに押します。

7 A/D ボタン

HDMI、デジタルおよびアナログ入力を切り替えるときに押します。

8 MUTE ボタン

音声をミュート（消音）するときに押します。

9 VOLUME +/– ボタン

音量を調節するときに押します。

10 AUDIO ボタン

AAC の 2 ヵ国語モードのとき ,MAIN（主音部）SUB（副音声）のどちらかでの再生を選択するときに押します。

11 INFO ボタン

本機では使用しません。

12 ◀、▶、▲、▼ / ENTER ボタン

本機や DVD プレーヤーなどのカーソルを操作します。

（チューナーモード選択時）

PRESET +/– ボタン

プリセットメモリーされた放送局を選択するときに押します。28 ページ参照

TUNE ▲/▼ ボタン

受信周波数を選択するときに押します。
13 ページ参照

13 EXIT / MEMO ボタン

（アンプモード選択時）

本機のセットアップメニューを終了するときに押します。

（チューナーモード選択時）

プリセットチャンネルを登録するときに押します。

14 CONTROL ボタン

再生、停止、一時停止や各ソース機器を操作するときに押します。

（アンプモード選択時）

LIP SYNC ボタン

LIP SYNC（リップシンク）モードを選択するときに押します。

CH SEL ボタン

チャンネルレベルを調整するときに押します。

（チューナーモード選択時）

T.MODE ボタン

FM 放送受信中にオートステレオまたはモノラルを選択するときに押します。

T.DISP ボタン

本機では使用しません。

PTY ボタン

本機では使用しません。

BAND ボタン

ラジオの帯域（FM/AM）を選択するときに押します。

15 BASS / CH +/– ボタン

（アンプモード選択時）

低音を調整するときに押します。

（DSS モード選択時）

チャンネルを選択するときに押します。

16 TREBLE +/– ボタン

（アンプモード選択時）

高音を調整するときに押します。

17 REPEAT ⇄ ボタン

DVD プレーヤーなどの機器でリピート（繰り返し）を選択するときに押します。

18 RANDOM ⤨ ボタン

DVD プレーヤーなどの機器でランダム（任意）を選択するときに押します。

19 TV コントロールボタン

テレビやモニターの操作（電源および入力切替）ができます。

20 CLR ボタン

DVD プレーヤーなどの機器でプログラム再生等で確定した内容を消去するときに押します。

21 数字ボタン

ソース機器にトラックなどの番号を設定するときに押します。

22 T.TONE ボタン

このボタンはテストトーンを出力し、スピーカーレベルを設定するときに押します。

23 MENU ボタン

（アンプモード選択時）

このボタンを押すと ,OSD メニューシステムが起動します。

24 TOP ボタン

本機のセットアップメニューを表示中にトップメニューに戻ります。

25 DISPLAY ボタン

本機のディスプレイモードを選択するときに押します。

26 INPUT ▲/▼ ボタン

本機の入力ソースを選択するときに押します。

27 SETUP ボタン

DVD プレーヤーなどのセットアップを行なうときに押します。

28 SOURCE ボタン

ソースボタンを 1 回押すと、このリモコンの操作モードが選択した機器に切り替わります。
ソースボタンを 2 秒以内に 2 回続けて押すと、本機の入力セレクターが変わります。

ご注意

- 本機のアンプ機能の操作を行なうには AMP ボタンを押してください。
- 本機のチューナー機能の操作を行なうには TUNE ボタンを押してください。

29 STEREO ボタン

STEREO モードを選択するときに押します。

30 AUTO ボタン

オートサラウンドを選択するときに押します。

31 NIGHT ボタン

Dolby Digital 信号を再生中にナイトモードを選択するときに押します。

32 SLEEP ボタン

スリープタイマー機能を設定するときに押します。

各部の名称

33 I / ⏻ SOURCE ON/OFF ボタン
DVD プレーヤー等のソース機器の電源をオン／オフするときに使います。
本機の電源をオン／オフするときにも使います。

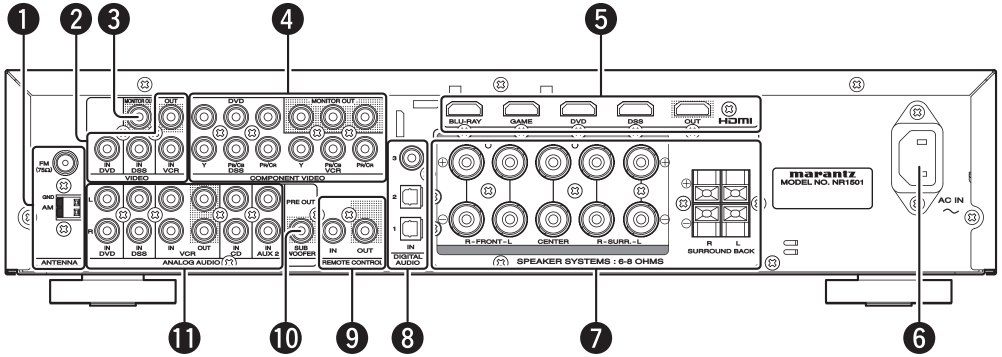
34 SET ボタン
このリモコンのプリセットモードを操作するときに押します。

35 SET インジケーター
このリモコンのプリセットコードを操作するときに点灯します。

36 SEND インジケーター
各ボタンを押して、リモコンが送信しているときに点灯します。

37 赤外線送信部
この部分から赤外線が送信されます。本機または操作したい機器の赤外線受光部に向けて使用してください。

後面



❶ ANTENNA 端子
FM（75 Ω）
付属の FM アンテナを接続します。
電波の弱い地域は市販の FM アンテナをご使用ください。

AM
付属の AM ループアンテナを接続します。
受信状態が最良になる位置にループアンテナを置いてください。

❷ VIDEO 端子(DVD, DSS, VCR)
映像端子には入力端子が 3 系統、出力端子が 1 系統あります。

❸ MONITOR OUT 端子
テレビやプロジェクターのビデオ入力端子に接続します。

❹ COMPONENT VIDEO 端子 (DVD, DSS, VCR)
DVD プレーヤーまたはその他の機器にコンポーネントビデオ端子が装備されている場合は、本機のコンポーネントビデオ端子（Y、PB/CB、PR/CR）と接続してください。
コンポーネントビデオ入力コネクター 3 系統と、ディスプレイ機器用にコンポーネントビデオ出力端子が 1 系統あります。

❺ HDMI 端子 (BD, GAME, DVD, DSS)
HDMI 入力端子が 4 系統と HDMI 出力端子が 1 系統あります。

❻ AC IN(AC 差し込み口)
付属の電源コードを接続し、家庭用交流 100V（50/60Hz）のコンセントに電源プラグを差し込みます。

万一の事故防止のため、本機から AC ケーブルが外せる配置にしてください。

❼ SPEAKER SYSTEMS 端子
各チャンネル（フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R）のスピーカーに接続します。

❽ DIGITAL AUDIO IN 1、2、3 端子
デジタル機器（DVD、CD、MD、BS チューナー等）のデジタル信号出力端子に接続します。接続する機器の出力端子の種類に合わせて使用して下さい。
入力端子は INPUT SETUP にて変更することができます。

❾ REMOTE CONTROL IN/OUT 端子
リモートコントロール（RC-5）端子が装備されたマランツ製 AV 機器と接続します。

❿ SUB WOOFER PREOUT 端子
サブウーファー用プリアンプ出力です。

⓫ ANALOG AUDIO 端子 (CD, DVD, DSS, VCR, AUX2)
アナログ音声端子には 5 系統の音声入力端子と 1 系統の音声出力端子があります。

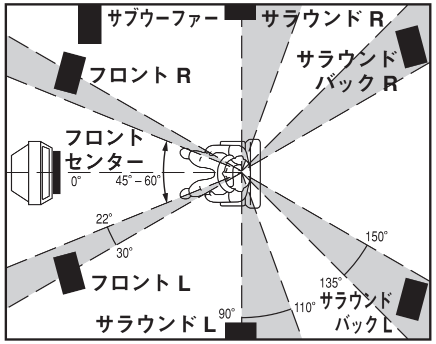
基本接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R、サブウーファーの合計 8 チャンネルです。
サラウンド再生に最低限必要なスピーカーシステムはフロント L/R、サラウンド L/R ですが、この場合ドルビーデジタル EX や DTS-ES の再生はできません。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。（20 ページ参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。



フロント L/R スピーカー

リスニングポジションから見て L と R のスピーカーが 45 度～ 60 度の角度を持つように設置することを推奨します。

センタースピーカー

フロント L/R スピーカーと前面を揃えるか、または少しだけ後方にずらして設置します。

サラウンド L/R スピーカー

サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの真横または少しだけ後方にずらした壁際に設置します。スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サラウンドバック L/R スピーカー

7.1ch サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの後の壁際に設置します。
スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サブウーファー

低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱うため、部屋の中であれば位置はそれほど重要ではありません。

スピーカー配置の高さ

フロントスピーカー（L、R、センター）

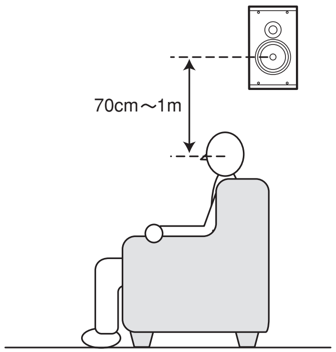
3 つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さに揃えます。

ご注意

スピーカーをテレビの近くに置く場合、フロント L/R およびセンタースピーカーは防磁型のスピーカーをご使用ください。

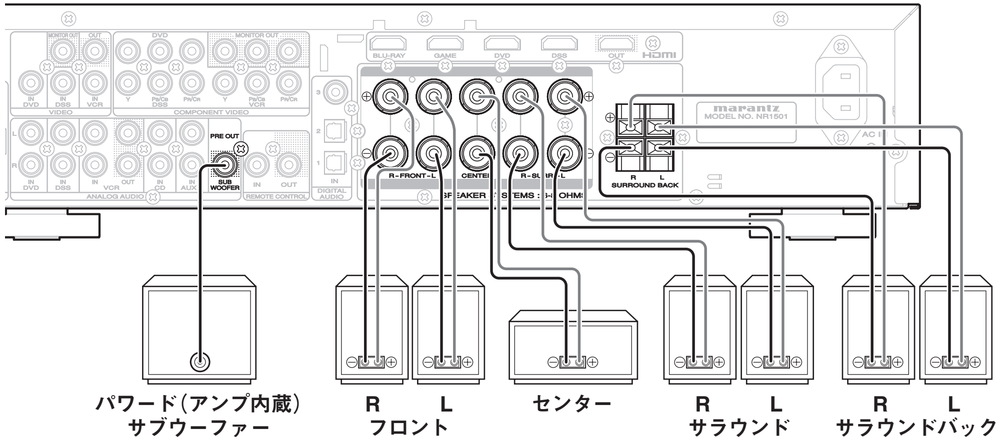
サラウンド L/R、サラウンドバックスピーカー

スピーカーをリスナーより 70 センチから 1 メートルくらい上方に設置します。これにより、音源定位を際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。

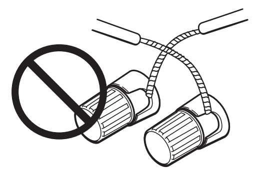


スピーカーシステムとの接続

- お使いになるスピーカーシステムは本機のリアパネルに記載されたインピーダンスのスピーカーを必ず使用してください。
- サブウーファーを接続する際、パワード（アンプ内蔵）サブウーファーは PRE OUT のサブウーファー用出力端子に接続してください。



ご注意

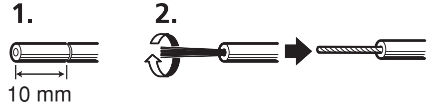


- 回路の破損を防止するため、スピーカーコードの芯線同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。
- 電源が入った状態でスピーカー端子に触れないでください。感電するおそれがあります。
- 1 つのスピーカー端子に 2 本以上のスピーカーケーブルを接続しないでください。本機が破損する可能性があります。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違って接続すると信号位相が反転し、再生される音楽は不自然になります。

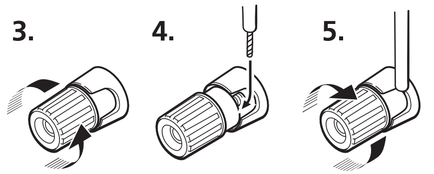
基本接続

スピーカーコードの接続

1. コードの被ふくを約10mm剥がします。
2. ショート防止のため、コードの芯線部分をきつくよじってください。
3. スピーカー端子を左方向に回して緩めます。
4. スピーカー端子の側面にある穴にスピーカーコードの芯線部分を挿入します。
5. スピーカー端子を右方向に回して、締めます。

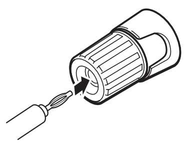


フロント R/L、センター、サラウンド R/L



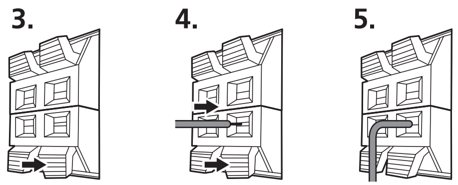
バナナプラグとの接続

バナナプラグを差し込みます。

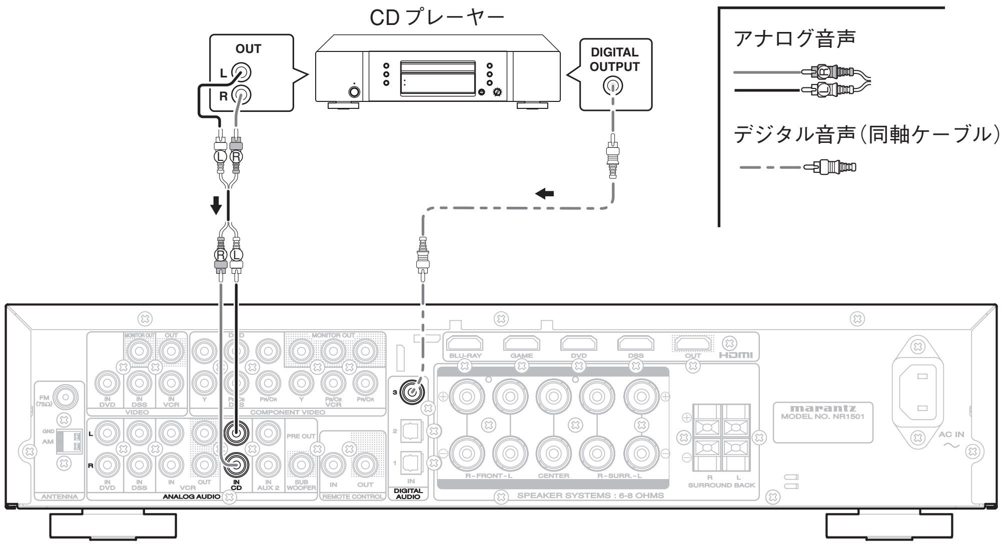


サラウンドバック R/L

3. レバーを押します。
4. 各々の端子の穴にワイヤーのよじった部分を挿入します。
5. レバーを放します。



オーディオ機器との接続



ご注意

- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L（左）チャンネルとR（右）チャンネルを正しく接続してください。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続する機器については、機器の取扱説明書を参照してください。
- 接続したケーブルを電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音が発生することがあります。

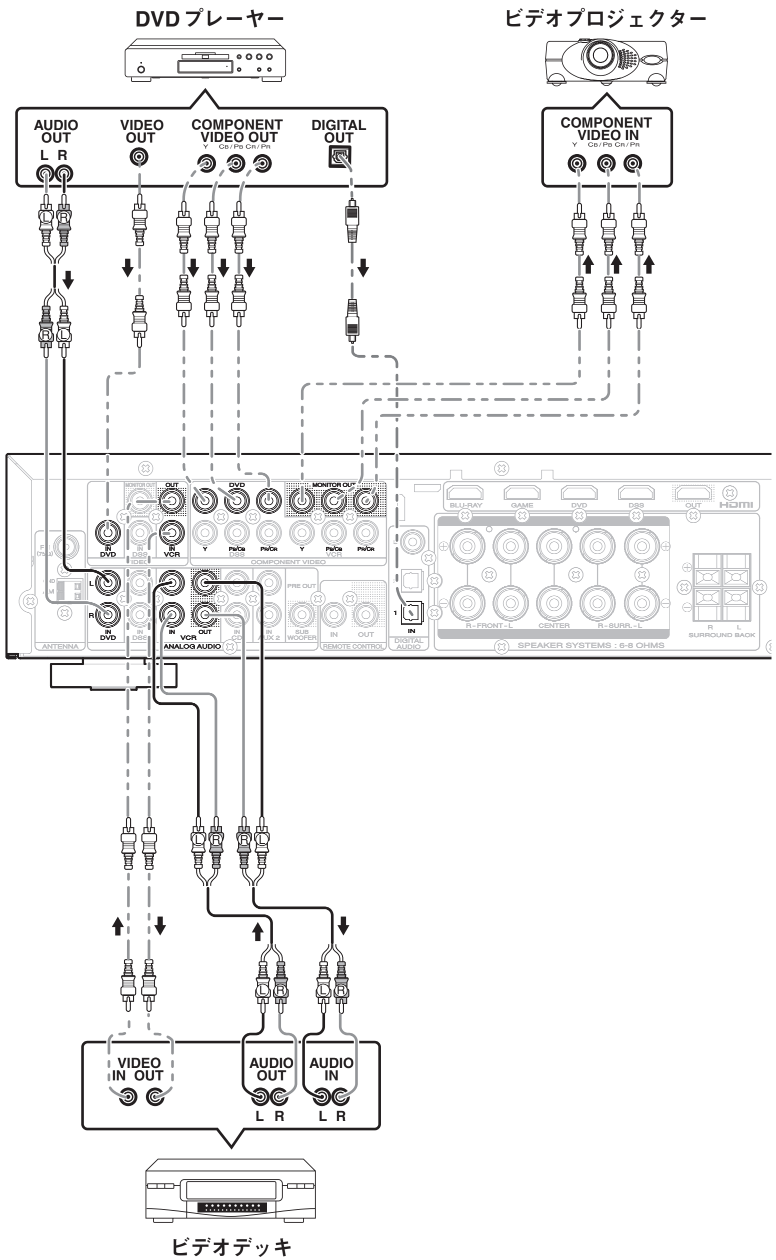
デジタル音声機器の接続

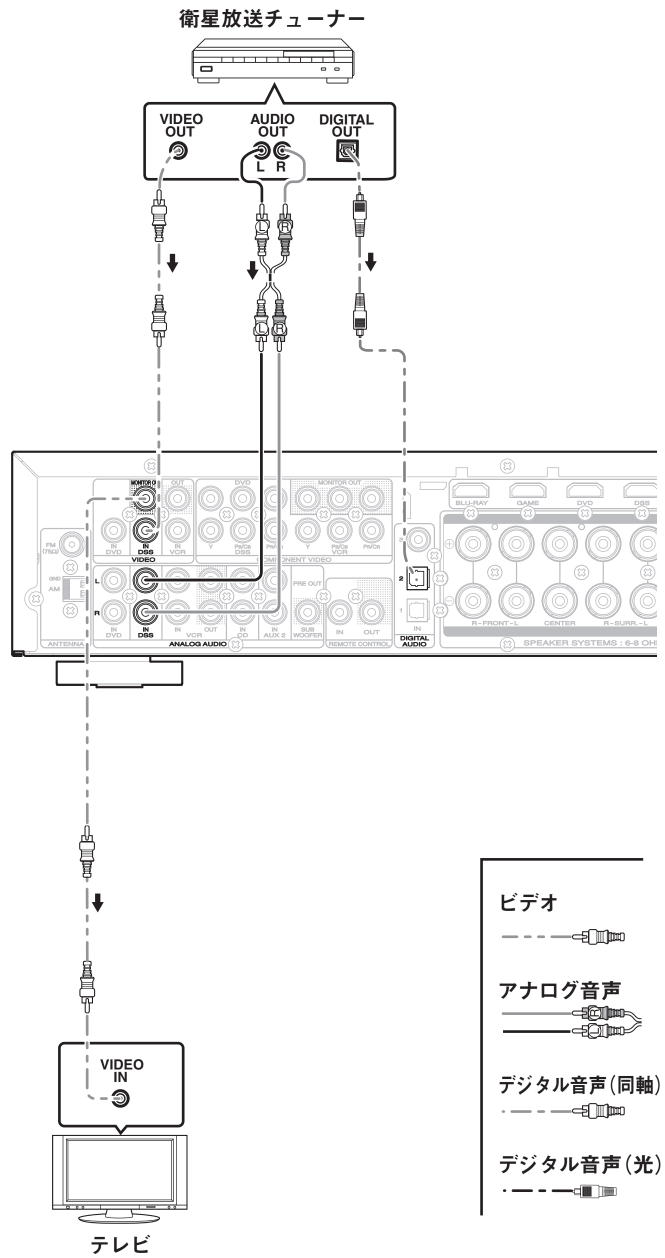
- リアパネルには光デジタル入力端子が2系統と同軸デジタル入力端子が1系統あります。
  これらの端子に、CD、DVD、その他のデジタルソース機器のPCM、Dolby Digital、DTS ビットストリーム信号を入力することができます。
- DVDプレーヤーやデジタル入力端子に接続されたその他のデジタルソースの音声形式の設定については、各機器の取扱説明書を参照してください。
- DIG-1、2入力端子には光ファイバーケーブルをご使用ください。DIG-3入力端子では75Ωの同軸ケーブル（デジタル音声用または映像用）をご使用ください。
- お持ちの機器に応じて、それぞれのデジタル入力端子への入力を指定することができます。19ページをご覧ください。

ご注意

- 本機のデジタル信号端子はEIA規格に準拠しています。この規格に準拠しないケーブルを使用すると雑音が発生したり音が途切れたりすることがあります。
- デジタルおよびアナログそれぞれの音声端子は独立しています。
  デジタル端子に入力された信号は、アナログ出力端子（VCR OUT）には出力されません。

ビデオ機器との接続





ビデオ、コンポーネント端子

本機には 2 つのタイプの映像端子があります。
VCR 出力端子は、録音用の出力端子です。現在選択されているアナログ入力ソースの音声が出力されます。
DIGITAL IN または HDMI に入力されたデジタル音声は、VCR OUT から出力しません。

VIDEO(ビデオ)端子

ビデオ端子の映像信号は従来の複合(コンポジット)映像信号です。

コンポーネント(色差ビデオ)端子

コンポーネントビデオ信号は輝度信号(Y)緑、色差信号(PB)青、色差信号(PR)赤の 3 本から構成されており、より高品質な映像再生ができます。ご使用の映像機器にコンポーネントビデオ出力端子がある場合はコンポーネントビデオ出力の使用をお勧めします。

ご注意

- 音声チャンネルのL(左)R(右)を正しく接続してください。赤いコネクターはR(右)チャンネル用、白いコネクターはL(左)チャンネル用です。
- 入力と出力を正しく接続してください。
- 本機には「ビデオコンバート機能」があります。映像の入出力については28ページを参照してください。
- お手持ちのDVDプレーヤーなどデジタルソース機器のデジタル音声出力形式を設定しなければならない場合があります。
  接続した各機器の取扱説明書を参照してください。

基本接続

HDMI 対応機器の接続

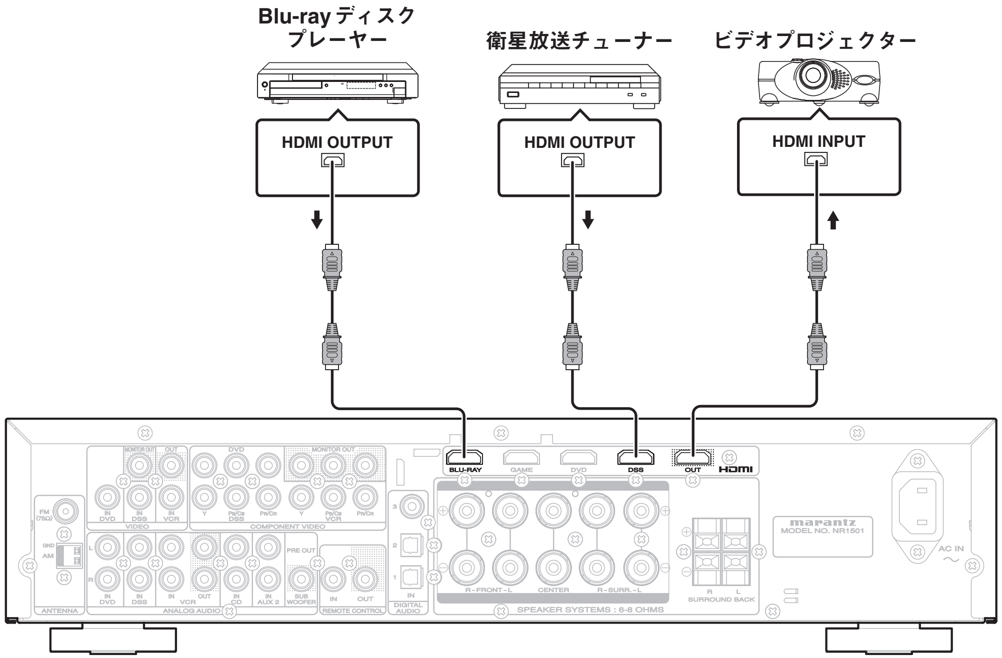
HDMI 端子

本機には HDMI 入力端子が 4 系統、HDMI 出力端子が 1 系統あります。この端子は Blu-ray ディスクプレーヤーやその他のソースから直接ディスプレイ機器にデジタル映像および音声信号を送ります。そのためアナログ変換による信号の劣化を最小限に抑えることができるので、高品質の映像をお楽しみいただけます。

ご注意

- HDCP* に対応していないモニター機器に HDMI 出力を接続しても信号は出力されません。HDMI の映像を見るには、HDCP に対応したディスプレイ機器に接続してください。
- HDMI 端子の詳細については、本機に接続する TV またはディスプレイ機器の取扱説明書を参照してください。

* HDCP: 高帯域デジタルコンテンツ・プロテクション



HDMI 対応機器の接続

市販の HDMI ケーブルを使用して本機の HDMI 端子と Blu-ray ディスクプレーヤー／TV／プロジェクターなどの HDMI 端子と接続します。
HDMI 端子のマルチチャンネルオーディオ伝送には、対応したプレーヤーが必要です。

ご注意

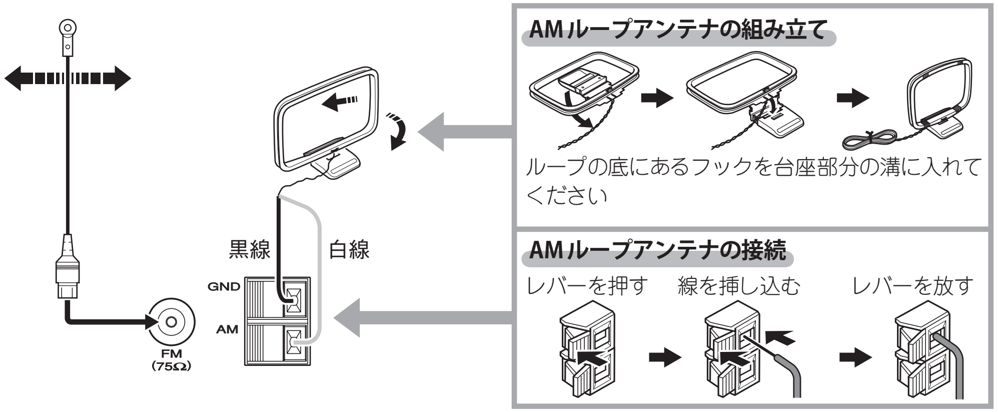
- DVD プレーヤーなどのソース機器の中には HDMI リピーター動作に対応しない機器があります。このとき TV またはプロジェクターなどのモニター機器には出力されません。
- 複数の機器を接続したときは、お互いの干渉を防ぐため、使わない機器の電源を切ってください。
- 電源が入った状態でケーブルを抜き差しすると、故障の原因になります。電源を切った状態でケーブルの抜き差しを行ってください。
- 本機と HDMI 1.3a 未対応の機器を接続した場合、下記の機能は使用できません。
  - ディープカラー
  - x.v.Color
  - Dolby Digital PLUS、Dolby True HD、DTS-HD などのビットストリーム音声信号のデコード

  詳細は接続する機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI 信号は、使用するケーブルの品質によってノイズの影響を受けることがあります。
- 本機は HDMI コントロールに対応していません。しかし、本機を HDMI コントロールに対応した機器間に接続し、HDMI コントロール信号をスルーして制御を行なうことができます。（HDMI コントロールスルー）
  HDMI コントロールとは、HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）を用いた機器間相互制御の機能です。HDMI ケーブルでつなぐことにより、機器間で連動した操作を行うことができます。

アンテナの接続

付属アンテナの接続

FM／AM 放送を聴くときはアンテナを接続してください。付属のアンテナは室内でご使用ください。

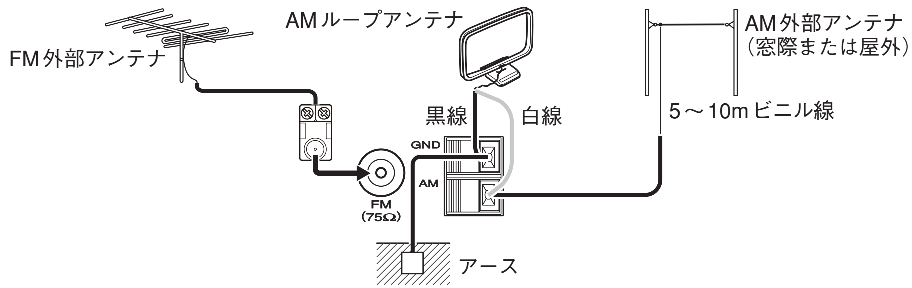


ご注意

- 付属のFMアンテナを使用する際アンテナ線を伸ばし、最もクリアに受信できる位置に固定してください。
- 付属のAMアンテナを使用する際アンテナ線を本機、テレビや電源コードからなるべく遠ざけて、最もクリアに受信できる方向に向けてください。

屋外アンテナの接続

受信状態が良くない地域では、屋外アンテナ（別売り）を設置することをおすすめします。
アンテナを設置するときは雑音源（ネオンサイン、交通量の多い道路、送電線、変圧器など）から離してください。

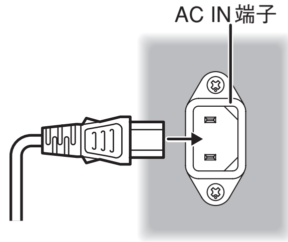


ご注意

- AM屋外アンテナを使用するときも、AMループアンテナは取り外さないでください
- 付属のFMアンテナは接続しないでください
- 本機のGND端子は安全用アースではありません。

電源コードの接続

1. 付属の電源コードを本機の後面のAC IN端子に差し込んでください。



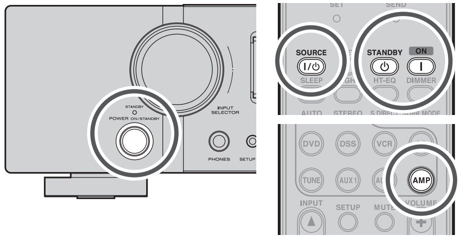
2. 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

基本操作

アンプ操作

電源を入れる



1. 視聴したい AV機器（DVDプレーヤーなど）の電源を入れます。

2. 本機の **POWER ON/STANDBY**ボタンを押します。ボタンを押すたびにオンとスタンバイに切り替わります。
リモコンで操作するには、**AMP**ボタンを押したあとで **ON**または **OFF**ボタンを押してください。

入力ソースの選択

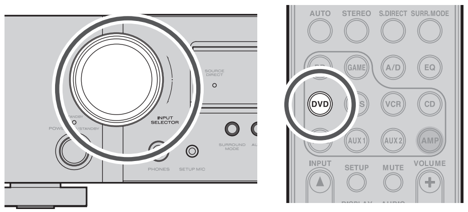
例：DVD を再生する

（本機で操作する場合）

INPUT SELECTOR つまみをまわして DVD を選択します。

（リモコンで操作する場合）

リモコンの **DVD** ボタンを 2 回続けて押します。

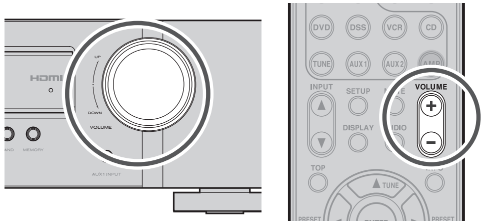


- 入力ソースが変わるとフロントパネルの表示部に入力ソース名が表示されます。

- ファンクションリネーム機能を使用している場合は設定した名前が表示されます。（19ページ参照）

音量を調整する

フロントパネルの **VOLUME** つまみ、またはリモコンの **VOLUME ＋ / −**ボタンで、お好みの音量に調節します。



音量を上げるには、**VOLUME** つまみを右に回すか、リモコンの **VOLUME ＋**ボタンを押します。
音量を下げるには、**VOLUME** つまみを左に回すか、リモコンの **VOLUME −**ボタンを押します。

ご注意

- CHANNEL LEVEL 設定でチャンネルのレベルを＋ 1 dB 以上に設定した場合、最大音量は+80 dB より小さくなります。（23 ページ参照）

トーンを調整する

お好みや部屋の音響に合わせて低音域（BASS）と高音域（TREBLE）を調整することができます。
2dB ステップで +/-10dB まで調整できます。



リモコンの **AMP** ボタンを押します。
低音域を調整するには **BASS+** または **BASS-** ボタンを押します。
高音域を調整するには **TREBLE+** または **TREBLE-** ボタンを押します。

ご注意

トーンコントロール機能は、以下のモードではご使用できません。

- ソースダイレクトモードで再生中

一時的に消音（ミュート）する

電話がかかってきたときなどに、一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。



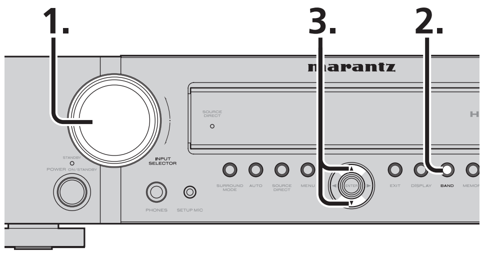
1. リモコンの **MUTE**ボタンを押すと、本機のディスプレイに“MUTE”と表示され、スピーカーから音がでなくなります。録音出力が途切れることはありません。

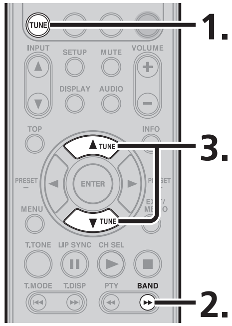
2. 再度リモコンの**MUTE**または**VOLUME ＋/−**ボタンを押すとミュートは解除されます。

チューナー(FM ／ AM)を聴く

チューナー機能の操作をリモコンで行う場合は、リモコンをチューナーモードにしてから操作を行います。

オートチューニング





(本機で操作する場合)

1. **INPUT SELECTOR**つまみを回してチューナー(FMまたはAM)を選択します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド(FMまたはAM)を選択します。
3. ▲または▼ボタンを 0.5秒以上押し続けると、オートチューニングモードになりスキャンを開始します。
4. 放送局を受信するとスキャンは停止して放送を聴くことができます。スキャン中に▲または▼ボタンを押すとスキャンは停止します。

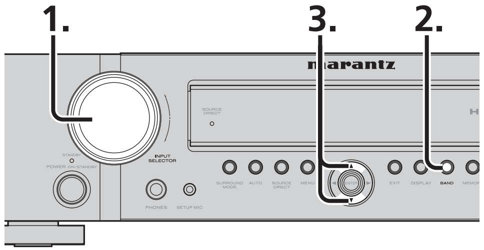
(リモコンで操作する場合)

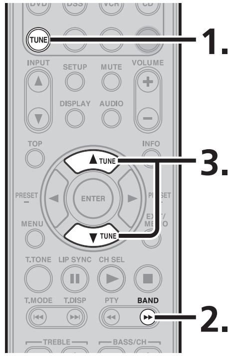
1. **TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド(FMまたはAM)を選択します。
3. **▲TUNE**または **▼TUNE**ボタンを 0.5秒以上押すと、オートチューニングモードになりスキャンを開始します。
4. 放送局を受信するとスキャンが停止して放送を聴くことができます。スキャン中に**▲TUNE**または**▼TUNE**ボタンを押すとスキャンは停止します。

ご注意

受信状態が良くない場合、スキャンが停止しないことがあります。その場合はマニュアルチューニングを行ってください。

マニュアルチューニング





(本機で操作する場合)

1. **INPUT SELECTOR**つまみを回してチューナー(FMまたはAM)を選択します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド(FMまたはAM)を選択します。
3. ▲または ▼ボタンを押して聴きたい放送局の周波数に合わせます。

(リモコンで操作する場合)

1. **TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド(FMまたはAM)を選択します。
3. **▲TUNE**または**▼TUNE**ボタンを押して聴きたい放送局の周波数に合わせます。

FM 受信モードを切り替える



通常は FM オートステレオモードで使用しますが、受信状態が良くない放送局では雑音が目立つことがあります。
その場合には FM モノモードに切り替えると雑音が軽減され聴きやすくなります。

(リモコンで操作する場合)

1. **T.MODE**ボタンを押すとディスプレイに「MONO」と表示されモノモードになります。
2. もう一度**T.MODE**ボタンを押すとディスプレイに「ST」と表示されオートステレオモードになります。

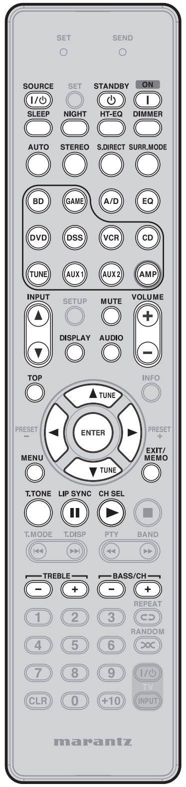
各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

基本操作

リモコンで本機を操作する

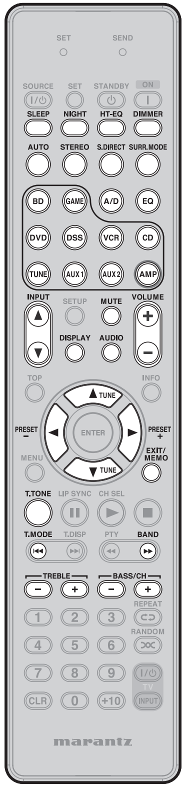
- 付属リモコンを使って本機を操作するには，AMPボタンまたはTUNEボタンを押してください。
- アンプおよびチューナーの詳細については以下を参照してください。

アンプモード



SOURCE	本機の電源オン／スタンバイ
STANDBY	本機の電源をスタンバイ
ON	本機の電源をオン
SLEEP	スリープタイマーの設定／解除
NIGHT	ナイトモードのオン／オフ
HT-EQ	ホームシアターEQ をオン／オフ
DIMMER	表示部の輝度を切り替え
AUTO	オートサラウンドモードを選択
STEREO	ステレオモードを選択
S.DIRECT	ソースダイレクトモードを選択
SURR.MODE	サラウンドモードの切り替え
SOURCE	ソース機器を選択
A/D	オート／HDMI／デジタル／アナログ入力の切り替え
EQ	ルームイコライザーのオン／オフ
AMP	リモコンをアンプモードに設定
INPUT ▲/▼	本機の入力セレクターを切り替え
MUTE	一時的にミュート（消音）
VOLUME+/–	音量の調整
DISPLAY	表示モードを切り替える
TOP	セットアップメニュー表示中にトップに戻る
Cursor	セットアップメニュー表示中にカーソル移動
ENTER	セットアップメニュー表示中に設定の確認
MENU	セットアップメニューを表示
EXIT/MEMO	セットアップメニューを終了
T.TONE	テストトーンを開始
LIP SYNC	LIP SYNC の設定
CH SEL	スピーカー間のレベル調整
TREBLE+/–	高音域の調整
BASS+/–	低音域の調整

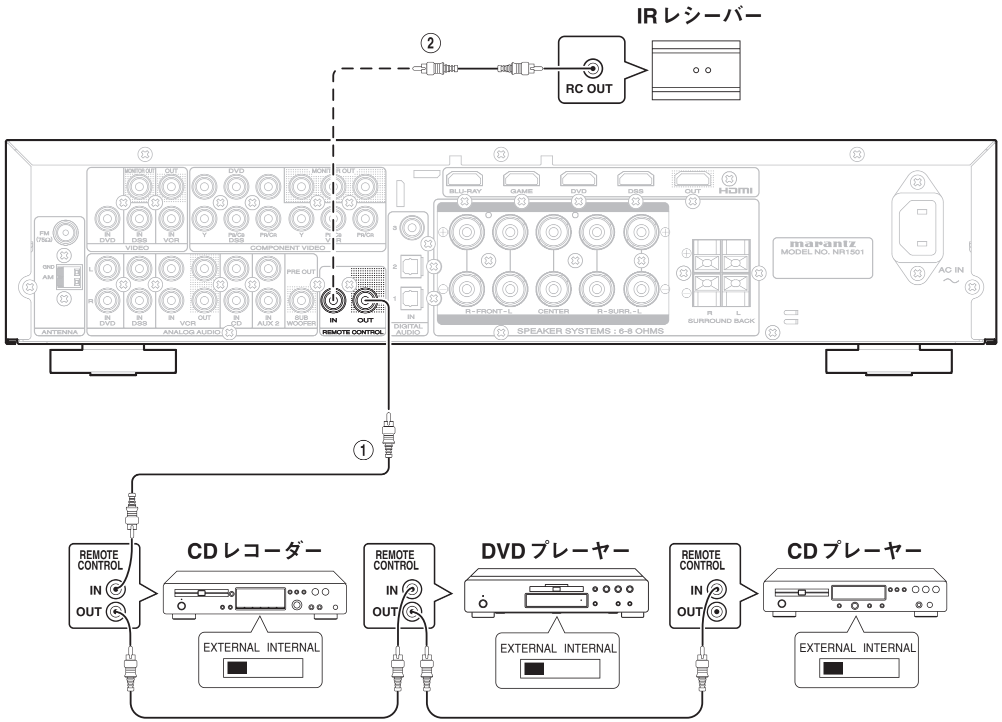
チューナーモード



<table>
<tr><td>SLEEP</td><td rowspan="17">アンプモードの機能が有効</td></tr>
<tr><td>NIGHT</td></tr>
<tr><td>HT-EQ</td></tr>
<tr><td>DIMMER</td></tr>
<tr><td>AUTO</td></tr>
<tr><td>STEREO</td></tr>
<tr><td>S.DIRECT</td></tr>
<tr><td>SURR.MODE</td></tr>
<tr><td>SOURCE</td></tr>
<tr><td>A/D</td></tr>
<tr><td>EQ</td></tr>
<tr><td>AMP</td></tr>
<tr><td>INPUT ▲/▼</td></tr>
<tr><td>MUTE</td></tr>
<tr><td>VOLUME+/–</td></tr>
<tr><td>DISPLAY</td></tr>
<tr><td>AUDIO</td></tr>
<tr><td>TUNE ▲/▼</td><td>受信周波数を調整</td></tr>
<tr><td>PRESET+/–</td><td>プリセットメモリーされた放送局を選択</td></tr>
<tr><td>EXIT/MEMO</td><td>プリセットメモリーの登録</td></tr>
<tr><td>T.TONE</td><td>アンプモードの機能が有効</td></tr>
<tr><td>T.MODE</td><td>FM オートステレオ／モノを切り替え</td></tr>
<tr><td>BAND</td><td>受信バンド（FM ／ AM）切り替え</td></tr>
<tr><td>TREBLE+/–</td><td rowspan="2">アンプモードの機能が有効</td></tr>
<tr><td>BASS+/–</td></tr>
</table>

応用接続

リモートコントロールの接続



①
他のマランツ AV 製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。

- リモコン操作は本機に向けて行なってください。リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
- このリモートコントロール接続を行う場合、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチは、EXTERNALまたはEXT. に設定して下さい。
- マランツ製のパワーアンプ（一部のモデルを除く）をこれらの端子のいずれかに接続すると、パワーアンプの電源スイッチは本機の電源スイッチと同調して作動します。

②
本機のリモートコントロール端子に外付け赤外受光部などを接続して操作する場合、必ず以下の手順に従って本機の赤外受光部の動作を無効にしてください。

1. フロントパネルの▲ボタンと **MENU**ボタンを同時に5秒間押し続けます。

2. FLディスプレイにENABLEと表示されます。

3. ◀または▶カーソルを押してこれを DISABLE に変更します。

4. **ENTER**ボタンを押します。この設定を行うと本機の赤外線受光部が無効になります。

ご注意

- 外付け赤外受光部などが接続されていない場合は、必ず「ENABLE」に設定してください。「DISABLE」に設定されていると、リモコンでの操作ができません。

5. 元の設定に戻すには、手順**1.**から**4.**を繰り返し、ENABLEに設定してください。

システムセットアップ

すべての機器の接続が終了した後、OSD メニューシステムを用いて各種設定を行なってください。

オンスクリーン・ディスプレイ・メニューシステム（OSD メニューシステム）

本機には OSD メニューシステムが搭載されています。このシステムを、リモコンまたはフロントパネルのカーソルボタン ▲ / ▼ / ◀ / ▶ と **ENTER** ボタンを用いて様々な設定を行います。

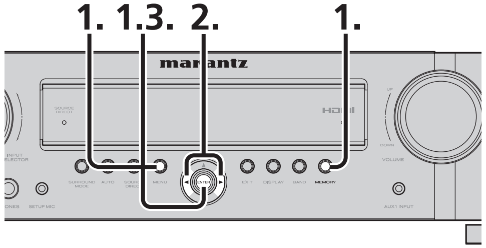
ご注意

- 本機の「セットアップ」は全て OSD メニューを見ながら設定をします。OSD メニューシステムを見るためには、お手持ちの TV またはプロジェクターのビデオ入力を本機のリアパネルの MONITOR OUT 端子に接続してください。（9、10 ページ参照）

1. リモコンの **AMP** ボタンを押します。（本機でセットアップメニューを操作する場合は、この操作をする必要はありません。）
2. リモコンの **MENU** ボタンまたは本機の **MENU** ボタンを押します。
   モニターに OSDメニューシステムの「MAIN MENU」が表示されます。
   MAIN MENUには5つの設定項目があります。
3. カーソルボタン ▲ / ▼で希望するサブメニューを選択し、**ENTER** ボタンを押します。
   選択したサブメニューが表示されます。

OSD 出力モードの切り替え

OSD メニューの出力モードを本機と TV、モニターの接続方法に合わせて、設定する必要があります。以下の方法で設定してください。

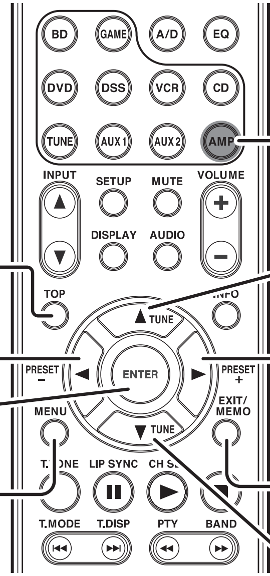


1. フロントパネルの **MENU** ボタンと **ENTER** ボタンを同時に3秒以上押し続けます。
   - ディスプレイに「NTSC」が表示されます。
2. フロントパネルの▲または▼カーソルボタンを押し、接続方法に合わせて設定を選択します。
   - **COLOR OFF**
     本機のコンポーネント端子と TV、モニターを接続する場合
   - **COLOR ON**
     本機のビデオ端子と TV、モニターを接続する場合
3. **ENTER** ボタンを押し、設定を決定します。

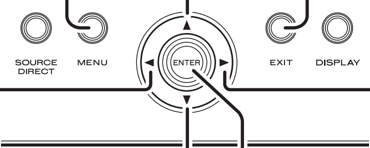
ご注意

- 本機の HDMI 出力端子に接続した TV モニターで OSD メニューを見る場合は、この設定がどちらに設定されていても問題ありません。
- 設定が正しく行なわれていないと、OSD メニュー画面が乱れる場合があります。

RC006SR ボタンレイアウト

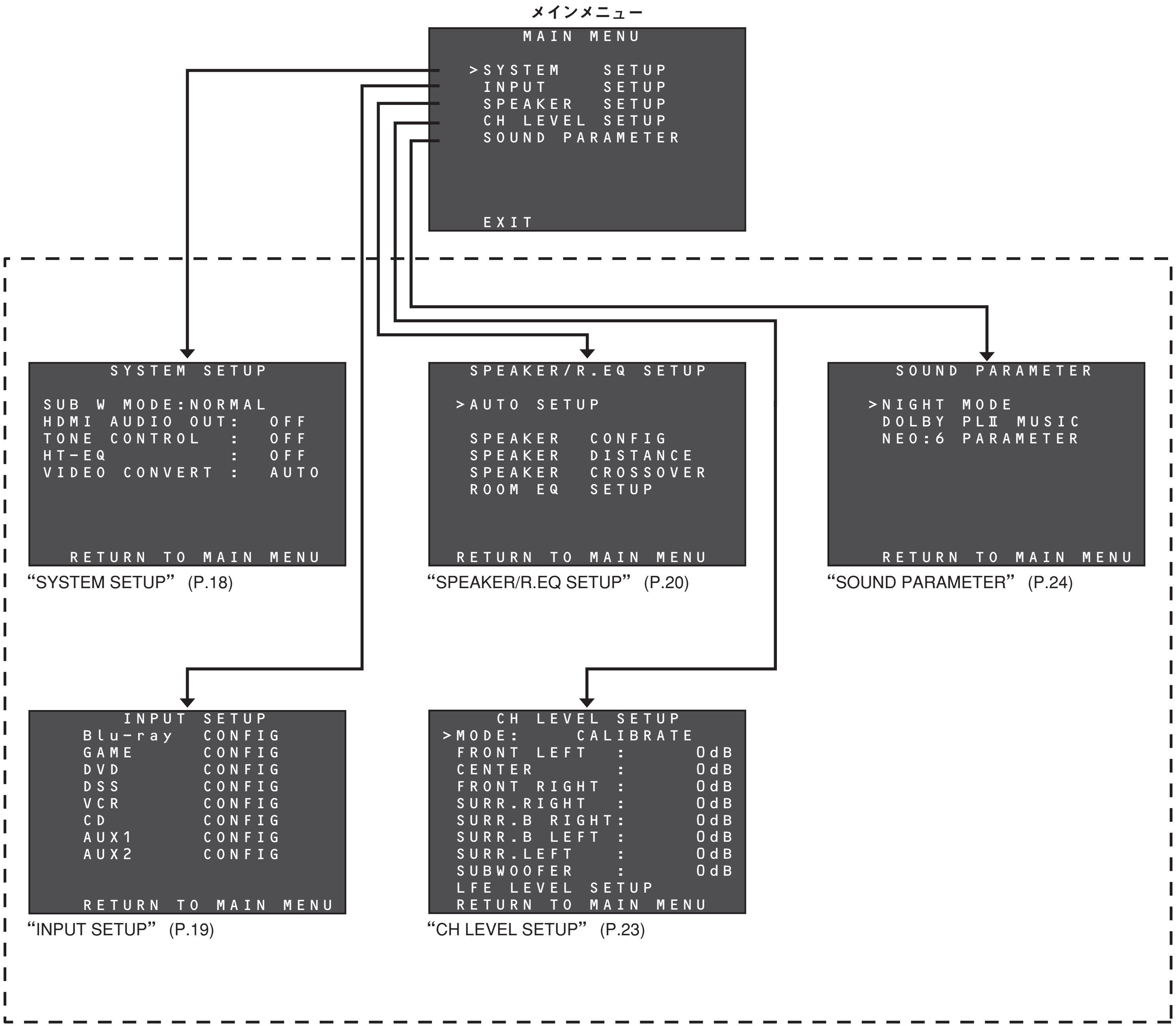


NR1501 ボタンレイアウト



アドバイス

- サブメニューの設定が終了した後、カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「RETURN to MAIN MENU」に移動し、ENTER ボタンを押してメインメニューに戻ります。
- 他のサブメニューへ進むには、一旦メインメニューに戻り、設定したいサブメニューを選択してください。
- リモコンのTOPボタンを押すと、セットアップの設定の途中でメインメニューのトップ画面に戻ります。



“SYSTEM SETUP” (P.18)

“SPEAKER/R.EQ SETUP” (P.20)

“SOUND PARAMETER” (P.24)

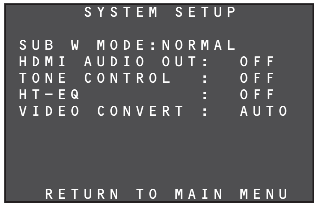
“INPUT SETUP” (P.19)

“CH LEVEL SETUP” (P.23)

システムセットアップ

1. SYSTEM SETUP

本機の主要機能の設定を行います。



▲/▼カーソルボタンで設定を行う項目にカーソルを移動します。

1-1 SUB W MODE

サブウーファーモードの設定は、フロントスピーカーを「FULL RANGE」に、サブウーファーを「YES」に設定した場合にのみ有効となります。
この設定はドルビー True HD(fs：192 k)以外で有効です。

アドバイス

各スピーカーの設定は「3. SPEAKER SETUP」(20 ページを参照してください。)

カーソルボタンの◀/▶で、「NORMAL」、「SW PLUS+」の切り替えを行います

- **NORMAL**

低音域帯はメインの L/R スピーカーでのみ再生されます。

- **SW PLUS+**

低音域帯はメインの L/R スピーカーとサブウーファーの両方で再生されます。 この再生モードでは、低音域帯が室内全体に均一に広がります。ただし、部屋の大きさや形状によっては干渉が起こって実際の低音域帯の音量が小さくなる場合があります。

1-2 HDMI AUDIO OUT

HDMI 端子から入力された音声信号を、本機に接続されたスピーカーで再生するか、本機の HDMI 出力端子に接続したテレビやプロジェクターで再生するかを設定します。

◀/▶カーソルボタンで、「ON」、「OFF」の切り替えを行います

- **OFF**

HDMI 端子からの音声入力信号を本機で再生します。この場合、本機の HDMI OUT に接続された TV やプロジェクターからは音声信号は出力されません。

- **ON**

HDMI に入力された音声は本機のスピーカー端子からは出力されません。音声データは本機の HDMI OUT に接続された、TV やプロジェクターにそのまま出力されます。マルチチャンネル対応 TV などで音声を聞きたいときに使用します。

1-3 TONE CONTROL

トーンコントロールの ON/OFF の切り替えとトーンコントロールの設定を行います。

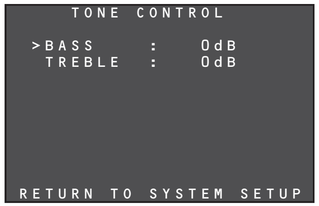
◀/▶カーソルボタンで、「ON」、「OFF」の切り替えを行います

- **OFF**

トーンコントロール機能が無効になります。

- **ON**

トーンコントロール機能が有効になります。
このときにリモコンの **ENTER** ボタンを押すと次のような、OSD メニューが表示され、トーンコントロールの設定を行なうことができます。



▲/▼カーソルボタンで「BASS」(低音)か「TREBLE」(高音)を選択します。その後、◀/▶カーソルボタンで UP/DOWN の調整を行います。
トーンコントロールは 2dB ステップで、+/－10dB まで調整できます。

トーンコントロールの調整が終わったら、カーソルを「RETRN TO SYSTEM SETUP」に移動して **ENTER** ボタンを押します。

ご注意

トーンコントロール機能は、以下のモードではご使用できません。

- ソースダイレクトモード

1-4 HT-EQ(ホームシアター EQ)

家庭のオーディオ装置で再生すると、映画のサウンドトラックは高音域が強調され耳ざわりな場合があります。これは映画のサウンドトラックが、サウンドスクリーンを使用した映画館の環境で再生されるように設計されているためです。映画館用の映画をご視聴時に HT-EQ 機能を有効にすると、補正を行って適切な音調バランスにします。

◀/▶カーソルボタンで、「ON」、「OFF」の切り替えを行います。

1-5 VIDEO CONVERT

本機に入力されるアナログ映像信号(ビデオ、コンポーネントビデオ)を HDMI 出力へアップコンバートする機能を設定します。

◀/▶カーソルボタンで、「AUTO」、「COMPONENT」、「CVBS」、「OFF」の切り替えを行います。

- **AUTO**

選択されている入力ファンクションに HDMI 信号がないときに、自動でビデオまたは、コンポーネントビデオ信号を検出して,HDMI OUT にアップコンバートします。
ビデオ信号とコンポーネント信号の両方が入力されているときは、コンポーネント信号を優先してアップコンバートをおこないます。

- **COMPONENT**

本機に入力しているコンポーネントビデオ信号を、HDMI OUT にアップコンバート出力します。

- **CVBS**

本機に入力しているビデオ信号を、HDMI OUT にアップコンバート出力します。

- **OFF**

本機のビデオコンバート機能を停止します。

ご注意

- 本機リアパネルの BLU-RAY 端子と GAME 端子は HDMI 入力しか接続できないので、VIDEO CONVERT 機能は働きません。
- HDMI のデジタル映像信号からアナログ映像信号のダウンコンバートはできません。
- HDMI OUT へのアップコンバート信号は、入力されたアナログビデオ信号の解像度で、そのまま出力されます。
  480i の解像度のビデオまたは、コンポーネントビデオ信号をアップコンバートするときは、480i の解像度に対応した映像モニター機器(テレビ)を本機に接続する必要があります。
- 本機に入力されるアナログ映像信号によっては、自動で入力信号を検出できない場合があります。
  このような場合は、「COMPONENT」または「CVBS」に切り替えて、固定モードでご使用ください。
- 「COMPONENT」または「CVBS」の固定モードを設定しても、HDMI 信号が入力されているときは,HDMI 信号を優先して出力します。(アップコンバート信号は HDMI OUT に出力しません。)

2. INPUT SETUP

本機に接続される INPUT SOURCE の設定を行ないます。

```
      INPUT SETUP
   >Blu-ray  CONFIG
    GAME     CONFIG
    DVD      CONFIG
    DSS      CONFIG
    VCR      CONFIG
    CD       CONFIG
    AUX1     CONFIG
    AUX2     CONFIG

    RETURN TO MAIN MENU
```

1. INPUT SETUPの OSDメニューで、設定を行なうファンクションを ▲/▼カーソルボタンで選択し、**ENTER**ボタンを押すと、サブメニューが表示されます。

```
    Blu-ray CONFIG

 >NAME         :BLU-RAY
  DIGITAL IN   :---
  AUDIO MODE   :HDMI
  AUTO SURROUND:AUTO
  LIP SYNC     :0ms

  RETURN TO INPUT SETUP
```

2-1 FUNCTION RENAME

入力ファンクション名を任意の名前に変更することができます。
登録可能な最大文字数はスペースも含め、7 文字までです。
登録したファンクション名は本機の表示部に表示されます。

1. ▲/▼カーソルボタンでINPUT SETUPのサブメニューのNAMEを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. カーソルがリネーム部に移動します。

```
    Blu-ray CONFIG

 >NAME         :BLU-RAY
  DIGITAL IN   :---
  AUDIO MODE   :HDMI
  AUTO SURROUND:AUTO
  LIP SYNC     :0ms

  RETURN TO INPUT SETUP
```

3. ◀/▶カーソルボタンで、カーソル(点滅表示)を変更する文字位置に移動します。

4. ▲/▼カーソルボタンでキャラクターを選択します。
変更するキャラクターは下記の中から選択できます。

A～Z 0～9 ( ) ＊ + , - . /

5. 変更が終わったら、**ENTER**ボタンを押して確定します。

2-2 DIGITAL INPUT

本機のリアパネルの DIGITAL AUDIO IN1～3 端子を希望するインプットファンクションに割り当てることができます。
(入力端子の番号を割り当てます)

1. ▲/▼カーソルボタンでINPUT SETUPのサブメニューのDIGITAL INにカーソルを移動します。

```
    Blu-ray CONFIG

  NAME         :BLU-RAY
 >DIGITAL IN   :1
  AUDIO MODE   :HDMI
  AUTO SURROUND:AUTO
  LIP SYNC     :0ms

  RETURN TO INPUT SETUP
```

2. ◀/▶カーソルボタンでデジタルインプットを選択します。

1: 光入力

2: 光入力

3: 同軸ケーブル入力

このとき --- を選択するとデジタルインプットの割り当てをしません。

2-3 AUDIO MODE

本機に入力されるオーディオ信号(アナログ入力、デジタル入力、HDMI 入力)の設定を行います。

1. ▲/▼カーソルボタンでINPUT SETUPのサブメニューの AUDIO MODEにカーソルを移動します。

```
    Blu-ray CONFIG

  NAME         :BLU-RAY
  DIGITAL IN   :---
 >AUDIO MODE   :HDMI
  AUTO SURROUND:AUTO
  LIP SYNC     :0ms

  RETURN TO INPUT SETUP
```

2. ◀/▶カーソルボタンでオーディオモードのAUTO、HDMI、DIGITAL、ANALOGを選択します。

• AUTO

入力されている音声信号の検出を行ないます。
HDMI 入力→デジタル入力→アナログ入力の順番で自動的に再生信号を選択します。

• HDMI

HDMI 入力信号の再生を行ないます。
HDMI 信号のみを使用する場合はこのモードを選択します。

ご注意

HDMI 入力がないファンクション(Blu-ray、GAME、DVD、DSS 以外)はこのモードに設定することはできません。

• DIGITAL

DIGITAL 入力信号の再生を行ないます。
DIGITAL 信号のみを使用する場合はこのモードを選択します。

• ANALOG

ANALOG 入力信号の再生を行ないます。
ANALOG 信号のみを使用する場合はこのモードを選択します。

ご注意

ANALOG 入力がないファンクション(Blu-ray、GAME)はこのモードに設定することはできません。

2-4 AUTO SURROUND

入力信号に対応するサラウンドモードを自動的に選択する機能の設定を行います。

1. ▲/▼カーソルボタンでINPUT SETUPのサブメニューの AUTO SURROUNDにカーソルを移動します。

```
    Blu-ray CONFIG

  NAME         :BLU-RAY
  DIGITAL IN   :---
  AUDIO MODE   :HDMI
 >AUTO SURROUND:AUTO
  LIP SYNC     :0ms

  RETURN TO INPUT SETUP
```

2. ◀/▶カーソルボタンで ONまたは OFFを選択します

• ON

入力されている音声信号に対応するサラウンドモードを自動的に選択して再生します。

• OFF

マニュアルモードになります。お好みのサラウンドモードを設定してください。

アドバイス

サラウンドモードのマニュアル設定は「サラウンドモード」(36 ページ)を参照してください。

システムセットアップ

2-5 LIP SYNC

接続する映像機器によっては、映像信号の処理がオーディオ信号に対して時間差があるものがあります。この差は、ほんのわずかですが映画や音楽を楽しむ上ではとても重要です。
LIP SYNC 機能は、オーディオ信号を遅らせて映像との時間差を調整します。
初期値は OFF（0ms）で、最大 200ms まで調整できます。

1. ▲/▼カーソルボタンで INPUT SETUPのサブメニューのLIP SYNCにカーソルを移動します。

```
    Blu-ray  CONFIG

 NAME            :BLU-RAY
 DIGITAL IN      :---
 AUDIO MODE      :HDMI
 AUTO SURROUND:AUTO
>LIP SYNC        :0ms


 RETURN TO INPUT SETUP
```

- ◀/▶カーソルボタンで 時間差を調整します。

アドバイス

ディスプレイやプロジェクター等の映像機器で映像を確認しながら調整を行う場合は、「LIP SYNC（リップシンク）機能」（27 ページ）を参照してください。

3. SPEAKER SETUP

本機を設置し、機器をすべて接続し、スピーカーの配置を決定したら、次に室内の環境に各スピーカーの配置が最適になるように SPEAKER SETUP（スピーカーセットアップ）メニューを設定します。

- **オートセットアップ機能で設定する場合：**

「3-1 AUTO SETUP」（21ページ参照）

- **MANUAL SETUP:**

「SPEAKER COFIG」（21ページ参照）
「SPEAKER DISTANCE」（22ページ参照）
「SPEAKER CROSSOVER（X-OVER）」（22ページ参照）
「ROOM EQ SETUP（CONFIG）」（22ページ参照）

1. MAIN MENUからカーソルボタン ▲/▼で「SPEAKER SETUP」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

```
  SPEAKER/R.EQ SETUP

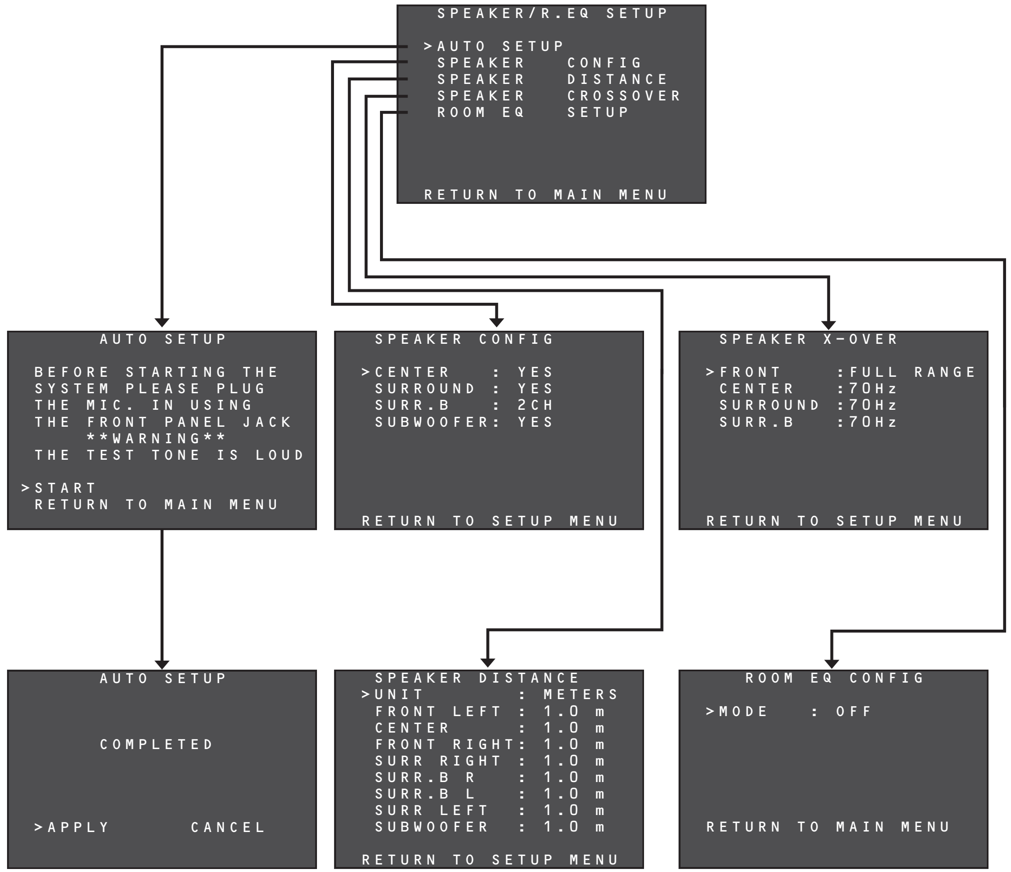
>AUTO SETUP

 SPEAKER    CONFIG
 SPEAKER    DISTANCE
 SPEAKER    CROSSOVER
 ROOM EQ    SETUP


 RETURN TO MAIN MENU
```

2. カーソルボタン ▲/▼で設定したいメニューを選択して **ENTER**ボタンを押します。

3. 各設定が終了した後、カーソルボタン ▲/▼/◀/▶で「RETURN TO MAIN MENU」を選択し、**ENTER**ボタンを押して「SPEAKER SETUP」サブメニューに戻ります。



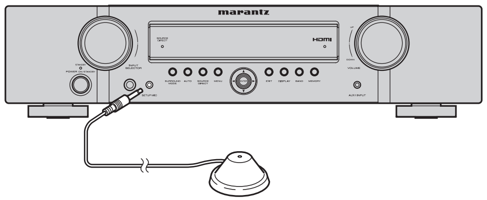
3-1 AUTO SETUP

本機の AUTO SETUP（オートセットアップ）は使用しているスピーカーシステムやお部屋の音響特性を付属のマイクを使って測定し、最適なリスニング環境の設定を自動で行う機能です。

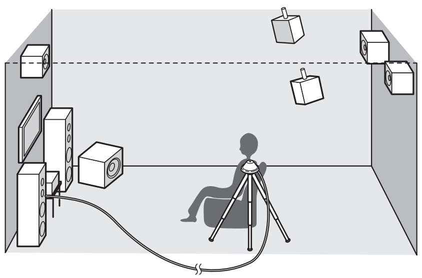
オートセットアップの操作のしかた

測定中は OSD メニュー画面に現在の状態が表示されるのでモニター機器の電源を入れてください。

1. 付属のマイクをフロントパネルのSETUPMIC端子に接続します。



2. マイクをメインリスニングポイントに設置します。



ご注意

- 測定はメインリスニングポイントにマイクを設置して測定を行ってください。
- リスニングポイントに対して、マイクを天井にまっすぐ向けた状態で、スタンドや三脚を使用してマイクをリスニング時の耳の高さに合わせて設置してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物を置かないようにしてください。
- アンプ内蔵のサブウーファーを使用する場合はボリュームを中央に設定し、クロスオーバー周波数をオフまたは一番高い周波数に設定してください。
- 測定中は、マイクとスピーカーの間に立たないでください。室内はできるだけ静かにしてください。暗騒音が室内測定に影響を与える場合があります。窓を閉め、各種装置（携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、電化製品、調光器など）の電源を切ってください。
- 測定時は、携帯電話をすべてのオーディオ電子機器から離れた場所に置いてください。携帯電話は、不使用時でも無線周波妨害（RFI）により測定に影響を与える場合があります。
- オートセットアップは、フロントパネルではなくリモコンで操作することをお勧めします。
- 各チャンネルから再生されるテストトーンの音量は、リスニング環境の周辺雑音を上回り、最適な S/N 比が得られるまで大きくなります。
ご近所やお子様に配慮して行なってください。

3. MAIN MENUの「SPEAKER SETUP」を選択し、▲/▼カーソルボタンで「AUTOSETUP」を選択し、**ENTER**ボタンを押して、スタート画面を表示させます。

```
          AUTO SETUP

  BEFORE STARTING THE
  SYSTEM PLEASE PLUG
  THE MIC. IN USING
  THE FRONT PANEL JACK
        **WARNING**
  THE TEST TONE IS LOUD

 >START
  RETURN TO MAIN MENU
```

4. ▲/▼カーソルボタンで STARTを選択し、**ENTER**ボタンを押して測定を開始します。
測定が終了すると、以下の画面が表示されます。

```
          AUTO SETUP


          COMPLETED



  >APPLY        CANCEL
```

測定結果を反映させる場合は、カーソルを APPLY に移動し、**ENTER** ボタンを押します。
自動測定によって設定された結果は、以下の設定画面で確認することができます。

- SPEAKER CONFIG（21ページ参照）
- SPEAKER DISTANCE（22ページ参照）
- CROSS OVER（X-OVER）（22ページ参照）
- ROOM EQ SETUP（CONFIG）（22ページ参照）

3-2 MANUAL SETUP

オートセットアップを使わず任意に設定する場合、以下の各項目を設定します。

- SPEAKER CONFIG
- SPEAKER DISTANCE
- SPEAKER CROSSOVER（X-OVER）
- ROOM EQ SETUP（CONFIG）

```
  SPEAKER/R.EQ SETUP

 >AUTO SETUP

  SPEAKER   CONFIG
  SPEAKER   DISTANCE
  SPEAKER   CROSSOVER
  ROOM EQ   SETUP


 RETURN TO SETUP MENU
```

1. MAIN MENUから「SPEAKER SETUP」を選択します。

2. カーソルボタン ▲/▼で設定する項目を選択します。

3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

4. **2.**、**3.**を繰り返し、設定が終了したらカーソルボタン▲/▼でRETURN TO SETUP MENUを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

SPEAKER CONFIG

```
    SPEAKER CONFIG

 >CENTER    : YES
  SURROUND  : YES
  SURR.B    : 2CH
  SUBWOOFER: YES




 RETURN TO SETUP MENU
```

ここでは本機に接続されているスピーカーの構成を設定します。

1. ▲/▼カーソルボタンで各チャンネルのスピーカーを選択します。

2. ◀/▶カーソルボタンでスピーカーの有無を設定します。

CENTER：
センタースピーカーの有無を選択します。
（YES または NO）

SURROUND：
サラウンド L/R スピーカーの有無を選択します。
（YES または NO）

SURR. B：
サラウンドバック L/R スピーカーを設定します。

2CH：
サラウンドバックに L/R スピーカー 2 本を使用する場合に選択します。

1CH：
サラウンドバックスピーカーが 1 本の場合に選択します。
音声信号はサラウンドバック L 端子から出力されます。スピーカーは SB L チャンネルに接続してください。

NO：
サラウンドバックスピーカーを使用しない場合に選択します。

SUBWOOFER：
サブウーファーの有無を選択します。
（YES または NO）

3. 各設定が終了した後、▲/▼/◀/▶カーソルボタンで「RETURN TO SETUP MENU」を選択し、**ENTER**ボタンを押してメニュー（SPEAKER/R.EQ SETUP）に戻ります。

システムセットアップ

SPEAKER DISTANCE

```
  SPEAKER DISTANCE
 >UNIT        : METERS
  FRONT LEFT  : 1.0 m
  CENTER      : 1.0 m
  FRONT RIGHT: 1.0 m
  SURR RIGHT : 1.0 m
  SURR.B R    : 1.0 m
  SURR.B L    : 1.0 m
  SURR LEFT   : 1.0 m
  SUBWOOFER   : 1.0 m

 RETURN TO SETUP MENU
```

ここではリスニング位置から各スピーカーまでの距離を指定します。この距離に基づいて自動的にディレイタイムが計算されます。
まず、部屋の中で通常座る理想的な位置を決めます。
適切な音場を作る音響タイミングを設定するために、この作業は重要です。
ご注意

- SPEAKER CONFIGで「NO」に設定したスピーカーはSPEAKER DISTANCEのMENUで設定できません。

1. ◀/▶カーソルボタンで「UNIT」（表示単位）を「m」（メートル）または「ft」（フィート）を設定します。

2. ▲/▼カーソルボタンでチャンネルを選択します。

3. ◀/▶カーソルボタンで、スピーカーまでの距離を設定します。

FRONT LEFT：
リスニング位置からフロントＬ スピーカーまでの距離を設定します。

CENTER：
リスニング位置からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

FRONT RIGHT：
リスニング位置からフロントＲ スピーカーまでの距離を設定します。

SURR RIGHT：
リスニング位置からサラウンドＲ スピーカーまでの距離を設定します。

SURR. B R：
リスニング位置からサラウンドバックＲ スピーカーまでの距離を設定します。

SURR. B L：
リスニング位置からサラウンドバックＬ スピーカーまでの距離を設定します。

SURR LEFT：
リスニング位置からサラウンドＬ スピーカーまでの距離を設定します。

SUB W：
通常のリスニング位置からサブウーファーまでの距離を設定します。

ご注意

- 各スピーカーまでの距離は以下の範囲でメートル（m）またはフィート（ft）で設定します。
- METERS:
  0.0から9 mの範囲で0.3 m単位で設定できます。
- FEET:
  0.5 から30.0 ftの範囲で1 ft単位で設定できます。
  （モニタには近似値で表示されます。）
- 「N O 」に設定したスピーカーにはSPEAKER DISTANCEメニューは表示されません。
- SPEAKER CONFIGメニューでサラウンドバックスピーカーを2CH に設定した場合は、「SURR. B L」と「SURR. B R」の設定が表示されます。
- SPEAKER CONFIGメニューでサラウンドバックスピーカーを1CHに設定した場合は、SURR. B Rの設定が「---」となり、設定することはできません。

4. 各設定が終了したとき、▲/▼カーソルボタンでカーソルを「RETURN TO SETUP MENU」に移動し、**ENTER**ボタンを押してメニュー（SPEAKER/R.EQ SETUP）に戻ります。

SPEAKER X-OVER

```
  SPEAKER X-OVER

 >FRONT     :FULL RANGE
  CENTER    :70Hz
  SURROUND  :70Hz
  SURR.B    :70Hz




 RETURN TO SETUP MENU
```

サブウーファーを使用するときは、スピーカーのカットオフ周波数を選択することができます。スピーカーのサイズに応じてクロスオーバー周波数レベルを選択します。
ここで設定された周波数以下の低域成分はサブウーファーから出力されます。
FULL RANGE に設定されたスピーカーからは全周波数帯域を出力します。

1. ▲/▼カーソルボタンでチャンネルを選択します。

2. ◀/▶カーソルボタンで、クロスオーバー周波数を設定します。

ご注意

- SPEAKER CONFIGメニューでNOに設定されたスピーカーはSPEAKER X-OVERのメニューで設定できません。
- SPEAKER CONFIGメニューでサブウーファーをNOに設定しているときは、FRONTスピーカーは自動的にFULL RANGEに設定され、クロスオーバー周波数を設定することができません。

3. 各設定が終了したとき、▲/▼カーソルボタンでカーソルを「RETURN TO SETUP MENU」に移動し、**ENTER**ボタンを押してメニュー（SPEAKER/R.EQ SETUP）に戻ります。

ROOM EQ CONFIG

AUTO SETUP で測定したリスニングルームの音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を補正します。

```
     ROOM EQ CONFIG

  >MODE    : OFF




  RETURN TO MAIN MENU
```

1. ◀/▶カーソルボタンで、モードを設定します。

MODE

ON:
周波数特性を補正します。

OFF:
周波数特性を補正しません。

2. 設定が終了したとき、▲/▼カーソルボタンでカーソルを「RETURN TO SETUP MENU」に移動し、**ENTER**ボタンを押してメニュー（SPEAKER/R.EQ SETUP）に戻ります。

ご注意

- ROOM EQの設定はAUTO SETUP機能を使って、室内の音響特性を測定していないと設定できません。（音響特性の補正は行いません。）
- ROOM EQは下記のオーディオインプットには対応していません。
  - DTS-HDマスターオーディオ
  - DTS-HDハイレソリューションオーディオ
  - ドルビーTrue HD
  - ドルビーデジタルプラス
  - PCM（fs：176.4 k / 192 k）

4. CH LEVEL SETUP

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調整を行ないます。
調整後のチャンネルレベルは 2 つまで本機にメモリーすることができます。

4-1 MEMORY MODE

設定したチャンネルレベルのメモリー、またはメモリーした設定の呼び出しを行ないます。

1. ▲/▼カーソルボタンでCH LEVEL SETUPのメニューのMODEにカーソルを移動します。

```
    CH LEVEL SETUP
>MODE:     CALIBRATE
 FRONT LEFT  :     0dB
 CENTER      :     0dB
 FRONT RIGHT :     0dB
 SURR.RIGHT  :     0dB
 SURR.B RIGHT:     0dB
 SURR.B LEFT :     0dB
 SURR.LEFT   :     0dB
 SUBWOOFER   :     0dB
 LFE LEVEL SETUP
 RETURN TO MAIN MENU
```

2. ◀/▶カーソルボタンでメモリーモードの CALIBRATE、AUTO、REFFERENCE 1、REFFERENCE 2を選択します

CALIBRATE:
設定されている各チャンネルレベルを表示します。この状態で、希望するチャンネルのレベルを変えることができます。
レベルの調整は「4-2 チャンネルレベルの調整」を参照してください。

AUTO:
AUTO SETUP 機能で自動設定したチャンネルレベルを表示します。
(AUTO SETUP については 21 ページを参照)
この状態で、希望するチャンネルのレベルを変えることができます。
レベルの調整は「4-2 チャンネルレベルの調整」を参照してください。

REFFERENCE 1, REFFERENCE 2:
お客様がメモリーした設定を呼び出すことができます。チャンネルレベルのメモリーは「4-4 チャンネルレベルのメモリー」を参照してください。

4-2 チャンネルレベルの調整

各チャンネルのレベル調整を行ないます。

1. ▲/▼カーソルボタンでCH LEVEL SETUPのメニューの調整したいチャンネルにカーソルを移動します。

```
    CH LEVEL SETUP
 MODE:     CALIBRATE
 FRONT LEFT  :     0dB
>CENTER      :     0dB
 FRONT RIGHT :     0dB
 SURR.RIGHT  :     0dB
 SURR.B RIGHT:     0dB
 SURR.B LEFT :     0dB
 SURR.LEFT   :     0dB
 SUBWOOFER   :     0dB
 LFE LEVEL SETUP
 RETURN TO MAIN MENU
```

2. ◀/▶カーソルボタンで音量を調整します。

- 各スピーカーからの音量を同一にします。
- 各チャンネルのレベル調整は-15dB〜-+15dBの範囲で調整を行なうことができます。

3. **1.**〜 **3.**を繰り返して全てのチャンネルレベルを調整します。

4-3 LFE LEVEL SETUP

Dolby Digital 信号または DTS 信号に含まれるLFE 信号の出力レベルを調整します。

1. ▲/▼カーソルボタンでCH LEVEL SETUPのメニューLFE LEVEL SETUPにカーソルを移動します。

```
    CH LEVEL SETUP
 MODE:     CALIBRATE
 FRONT LEFT  :     0dB
 CENTER      :     0dB
 FRONT RIGHT :     0dB
 SURR.RIGHT  :     0dB
 SURR.B RIGHT:     0dB
 SURR.B LEFT :     0dB
 SURR.LEFT   :     0dB
 SUBWOOFER   :     0dB
>LFE LEVEL SETUP
 RETURN TO MAIN MENU
```

2. **ENTER**ボタン押すと、サブメニューが表示されます。

```
   LFE LEVEL SETUP

>DOLBY       :     0dB
 DTS         :     0dB




 RETURN TO SETUP MENU
```

3. ▲/▼カーソルボタンで DOLBY またはDTSを信号を選択して、◀/▶カーソルボタンでレベルを調整します。

- LFE信号のレベル調整は0dB〜-10dBの範囲で調整を行なうことができます。

4. レベル調整が終わったら▲/▼カーソルボタンでカーソルを RETURN TO SETUPMENU に移動して **ENTER**ボタンを押して、CH LEVEL SETUP メニューに戻ります。

```
   LFE LEVEL SETUP

 DOLBY       :     0dB
 DTS         :     0dB




>RETURN TO SETUP MENU
```

4-4 チャンネルレベルのメモリー

調整した各チャンネルレベルの値をMEMORY MODEの「REFFERENCE 1」または、「REFFERENCE 2」にメモリーすることができます。

1. 全てのチャンネルレベルの調整が終わったら、カーソルを「MODE: 」に移動して、**ENTER**ボタン押します。

```
    CH LEVEL SETUP
>MODE:     CALIBRATE
 FRONT LEFT  :     2dB
 CENTER      :     1dB
 FRONT RIGHT :     2dB
 SURR.RIGHT  :    -1dB
 SURR.B RIGHT:     0dB
 SURR.B LEFT :     0dB
 SURR.LEFT   :    -1dB
 SUBWOOFER   :     3dB
 LFE LEVEL SETUP
 RETURN TO MAIN MENU
```

2. カーソルを「MODE: 」に移動して、**ENTER**ボタンを押すと、MEMORY MODEに「REFFERENCE 1」が点滅表示になります。

```
    CH LEVEL SETUP
>MODE:     REFERENCE1
 FRONT LEFT  :     2dB
 CENTER      :     1dB
 FRONT RIGHT :     2dB
 SURR.RIGHT  :    -1dB
 SURR.B RIGHT:     0dB
 SURR.B LEFT :     0dB
 SURR.LEFT   :    -1dB
 SUBWOOFER   :     3dB
 LFE LEVEL SETUP
 RETURN TO MAIN MENU
```

3. ◀/▶カーソルボタンで「REFFERENCE 1」または、「REFFERENCE 2」を選択して **ENTER**ボタン押してメモリーします。

4. 全ての設定が完了したら、▲/▼カーソルボタンでカーソルを RETURN TO MAIN MENU に移動して **ENTER**ボタンを押して、MAIN MENUに戻ります。

```
    CH LEVEL SETUP
 MODE:     REFERENCE1
 FRONT LEFT  :     2dB
 CENTER      :     1dB
 FRONT RIGHT :     2dB
 SURR.RIGHT  :    -1dB
 SURR.B RIGHT:     0dB
 SURR.B LEFT :     0dB
 SURR.LEFT   :    -1dB
 SUBWOOFER   :     3dB
 LFE LEVEL SETUP
>RETURN TO MAIN MENU
```

5. SOUND PARAMETER

ドルビーナイトモードと PLⅡ MUSIC、NEO:6 のパラメーター設定を行います。

```
SOUND PARAMETER

>NIGHT MODE
 DOLBY PLⅡ MUSIC
 NEO:6 PARAMETER

 RETURN TO MAIN MENU
```

5-1 NIGHT MODE

夜間などに再生音のダイナミックレンジを抑えて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。ナイトモードはドルビーデジタル音声に対してのみ効果があります。

1. ▲/▼カーソルボタンでSOUND PARAMETERのメニューの NIGHT MODEにカーソルを移動し、**ENTER**ボタンで確定すると、サブメニューが表示されます

```
NIGHT MODE

>DRC          : AUTO

RETURN TO SETUP MENU
```

2. ◀/▶カーソルボタンで「AUTO」または、「0.0」から「1.0」の圧縮率を設定します。

- 「AUTO」に設定すると、Dolby TrueHDソフトに含まれている信号を検出して、自動的にナイトモードをONにします。
  Dolby TrueHD以外のドルビーデジタル音声ではナイトモードはオフになります。
- 「0.0」に設定すると、ナイトモード機能をオフにします。
- ナイトモードを ONする場合は、「0.1」(弱) から「1.0」(強) の範囲で0.1ステップ単位でパラメーターを設定します。

3. 全ての設定が完了したら、▲/▼カーソルボタンでカーソルを RETURN TO SETUP MENU に移動して **ENTER**ボタンを押して、SOUND PARAMETERメニューに戻ります。

5-2 DOLBY PLⅡ MUSIC

Pro LogicⅡx-Music モードは CD などのステレオソースで、豊かで包み込むようなサラウンド環境を実現します。

1. ▲/▼カーソルボタンでSOUND PARAMETERのメニューのDOLBY PLⅡ MUSICにカーソルを移動し**ENTER**ボタンで確定すると、サブメニューが表示されます

```
DOLBY PLⅡ MUSIC

>PANORAMA       :OFF
 CENTER WIDTH  : 3
 DIMENSION     : 0

 RETURN TO SETUP MENU
```

PANORAMA:

PANORAMA モードは、フロント左右スピーカーから出る音がリスナーを包み込み、3 次元空間の表現力が得られます。
◀/▶ カーソルボタンで PANORAMA モードを「ON」または「OFF」に設定します。

CENTER WIDTH:

センターチャンネル成分を、徐々にフロント L/R のスピーカーに振り分ける機能です。センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることが可能になります。
◀/▶ カーソルボタンで 0 から 7 までの 8 段階の調整が可能です。

DIMENSION:

DIMENSION はフロントとリアのレベル差を調整する機能です。入力ソースによってはフロントが強くでるもの、リアが強くでるもの、と多様異なりますので、この機能で好みのバランスを得ることができます。
◀/▶ カーソルボタンで -3 から 3 までの 7 段階の調整が可能です

2. 全ての設定が完了したら、▲/▼カーソルボタンでカーソルを RETURN TO SETUP MENU に移動して **ENTER**ボタンを押して、SOUND PARAMETERメニューに戻ります。

5-3 NEO:6 PARAMETER

DTS NEO:6 は 2 チャンネル入力時、最大 6.1 チャンネル出力を可能にしたモードです。(5.1 チャンネル入力も対応。)
このモードでは、センタースピーカーの音声イメージが拡大されます。

1. カーソルボタン▲/▼で「NEO : 6 PARAMETER」を選択します。

2. **ENTER**ボタンを押して確定します。

```
NEO:6 PARAMETER

CENTER GAIN : 0.3

RETURN TO SETUP MENU
```

3. カーソルボタン◀/▶で CENTER GAIN レベルを 0.0 から 1.0の範囲で 0.1単位で選択できます。

ご注意

- この設定はNEO:6 Musicモードのときのみ有効です。

4. 設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼でカーソルを「RETURN TO SETUP MENU」に移動し、**ENTER**ボタンを押します。

応用操作

アンプ操作

スリープタイマーを使う

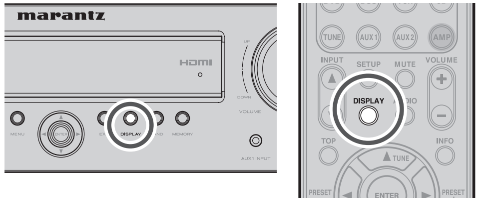


設定した時間になると自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。リモコンの **AMP** ボタンを押してから **SLEEP** ボタンを押します。
ボタンを押すたびに、スタンバイ状態になるまでの時間が次のように変化します。

OFF ⟶ 10 ⟶ 20 ⟶ 30 ⟶ 60 ⟶ 90 ⟶ 120

設定したスリープ時間が経過すると本機は自動的にスタンバイ状態になります。
スリープ・タイマーが設定されると、表示部に表示が点灯します。
スリープタイマー機能をキャンセルするにはタイマー時間が消えるまでリモコンの SLEEP ボタンを繰り返し押します。キャンセルされると表示部のインジケーターは消えます。

ディスプレイモード



本機表示部の 表示動作モードを選択できます。
本機またはリモコンの **DISPLAY** ボタンを押します。これらのボタンを押すごとに、表示動作状態が順番に切り替わります。
入力ファンクション → ボリューム → サラウンド → 入力信号 → 入力ファンクション

入力ファンクション：
FUNCTION INPUT SETUP（19 ページ参照）で設定した入力ファンクションの状態を表示します。

サラウンド：
選択したサラウンドモード状態を表示します。

ボリューム：
現在のボリュームを表示します。

入力信号：
選択しているファンクションに入力されている信号の状態を表示します。

DIMMER(ディマー)



本機表示部の輝度を変更します。
リモコンの **DIMMER** ボタンを押します。これらのボタンを押す毎に輝度が順番に切り替わります。
ON → DIMMER → OFF → ON

ON：
常に点灯した状態になります。

DIMMER：
表示部の輝度が暗くなります。

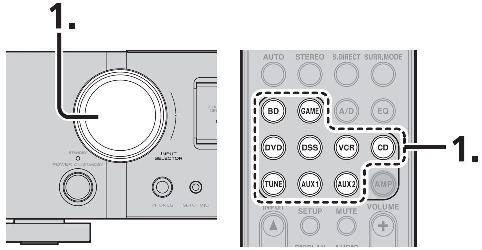
OFF：
常に消灯した状態になります。

ご注意

- 消灯した状態では、本機表示部の表示だけはこの機能が動作状態であることを表すために点灯します。

録音・録画をする

本機を操作して、記録用機器へ録音／録画することができます。このため本機は VCR OUT 端子を装備しています。



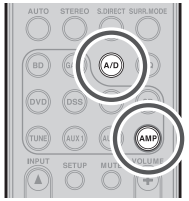
1. 本機の **INPUT SELECTOR**つまみを回すかリモコンのソースボタンを 2回続けて押して視聴したい入力ソースを選びます。
2. VCR OUT端子から選択した入力信号が録音／録画用として出力されます。
3. 接続した記録用機器を録音／録画モードにし、録音／録画を開始します。

ご注意

- デジタル信号入力だけの接続の場合、VCR OUT端子への出力は得られません。録音機能を利用する場合は、アナログ信号入力の接続も行ってください。
- コンポーネントビデオ信号入力からビデオ信号出力への変換は行いません。映像信号を録画する場合はビデオ入力信号を接続してください。
- HDMI入力端子に入力される信号は録画／録音することはできません。

応用操作

入力モード切り替え



アナログ以外の設定したソースを選んでいる場合、以下の入力モードを一時的に切り替えることが可能です。
リモコンの **A/D** ボタンを押します。
ボタンを押すごとに、入力モードが順番に切り替わります。
オート → HDMI → デジタル → アナログ → オート

オートモード：
選択した入力機器に対して HDMI またはデジタル入力端子に入力されているデジタル信号の有無を自動的に検出します。
（HDMI 入力とデジタル入力が検出された時は、HDMI 入力が優先されます）
デジタル信号が入力されていない場合はアナログ入力が自動的に選択されます。

HDMI モード：
HDMI 入力に固定されます。

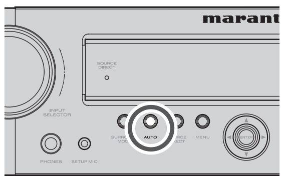
デジタルモード：
デジタル入力に固定されます。

アナログモード：
アナログ入力に固定されます。

サラウンドモードの選択

お好みのサラウンドモードを選ぶことができます。

例：オートサラウンドを選択





（本機で操作する場合）
AUTO ボタンを押します。

（リモコンで操作する場合）
AMP ボタンを押してから **AUTO** ボタンを押します。

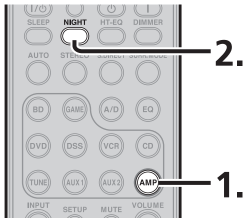
例：その他のサラウンドモードを選択
サラウンドモードについては 36 ページを参照してください。

（本機で操作する場合）
お好みのサラウンドモードになるまで **SURROUND MODE** ボタンを何回か押します。

（リモコンで操作する場合）
AMP ボタンを押したあとで、お好みのサラウンドモードになるまで **SURR.MODE** ボタンを何回か押します。

ナイトモード

夜間などに聴くとき再生音のダイナミックレンジを抑えて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。
ナイトモードはドルビーデジタル音声に対してのみ効果があります。

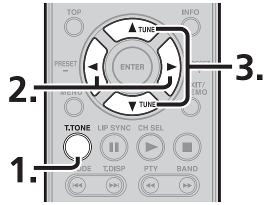


1. リモコンの**AMP**ボタンを押します。
2. **NIGHT**ボタンを押す毎にナイトモードの数値が以下のように切り替わります。
   AUTO → 0.0 → 0.1 → 0.2 → ...... → 1.0 → AUTO
   数値はダイナミックレンジのレベルです。

- ナイトモードを 0.0に設定するとオフに設定され、1.0で最大に設定されます。
- ナイトモードを AUTOに設定すると、Dolby TrueHDソフトに含まれている信号を検出して、自動的にナイトモードをオンに設定します。
- Dolby TrueHD以外のドルビーデジタル音声ではナイトモードはOFFになります。
- ソースダイレクトモードを選択しているときにはナイトモードはオフになります。

スピーカー間の音量差調整（テストトーン使用）

各スピーカーからテストトーンを出力し、スピーカー間の音量差を調節することができます。



1. リモコンの**T.TONE**ボタンを押します。

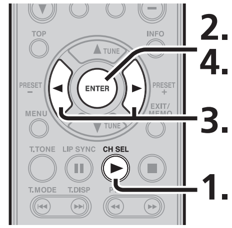
テストトーンは各チャンネルで 2 秒ずつ、以下の順で循環して出力されます。
フロント L → センター → フロント R → サラウンド R → サラウンドバック R → サラウンドバック L → サラウンド L → サブウーファー → フロント L...

- SPEAKER CONFIGメニューでNOに設定されているスピーカーからテストトーンは出力されません。

2. ◀/▶カーソルボタンを押して、スピーカーの音量を調整します。
3. ▲/▼カーソルボタンを押して、テストトーンを出力するスピーカーを切り替えます。
4. **2.**、**3.**を繰り返してすべてのスピーカーのレベルが同じになるようにスピーカーから出力されるテストトーンの音量を調整します。

スピーカーの音量設定の登録

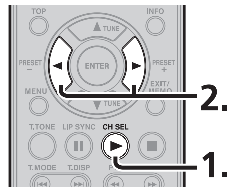
任意に設定した音量設定を 2 つまで保存することができます。



1. リモコンの**CH SEL**ボタンを押します。
2. **ENTER**ボタンを押します。
   モニターと表示部に"REF-1"が数秒点滅表示されます。
3. ◀/▶カーソルボタンを押して、保存したい場所をREF1、REF2と切り替え、**ENTER**ボタンを押します。
4. **ENTER**ボタンを押して現在の音量設定を保存します。

登録したスピーカーの音量設定を呼び出す

登録した音量設定を呼び出すことができます。



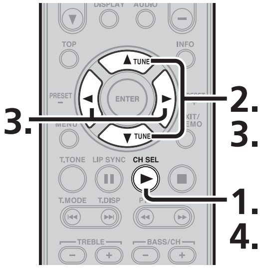
1. リモコンの**CH SEL**ボタンを押します。
2. ◀/▶カーソルボタンを押すごとに音量設定がAUTO、REF1、REF2、と切り替わります.

アドバイス

- AUTO を選択すると、AUTO SETUP で自動設定されたスピーカーレベルが呼び出されます。AUTO SETUP については 21 ページを参照してください。

スピーカー間の音量差調整（テストトーン未使用）

テストトーンを使わずに各スピーカーの音量を調整することができます。



1. リモコンの**CH SEL**ボタンを押します。

2. ▲/▼カーソルボタンを押すごとに表示部は下記のように切り替わります。
CAL（または AUTO、REF 1,REF2）↔ FL ↔ C ↔ FR ↔ SR ↔（SBR ↔ SBL）またはSB ↔ SL ↔ SUB ↔ CAL（またはAUTO、REF 1,REF2）

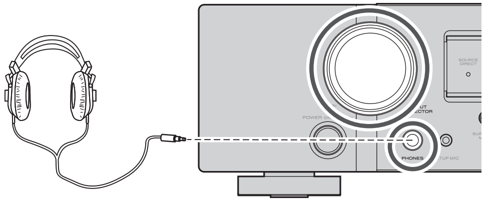
- SPEAKER CONFIGでNOに設定されているスピーカーは表示されません。

3. 表示しているスピーカーの音量を、◀/▶カーソルボタンで調整します。
▶ボタンを押すと音量は上がり、◀ボタンを押すと音量は下がります。

4. 各スピーカーのレベル調整が終わったら、**CH SEL**ボタンを押して設定を終了します。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホン（PHONES）端子は、本機をヘッドホンで聴く場合に使用します。標準ステレオプラグヘッドホンをご使用ください。
ヘッドホン端子を使用しているときは、スピーカーが自動的にオフになります。



ご注意

ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。

⚠ 警 告

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくなりすぎないように注意してください。

HT-EQ を使う

HT-EQ の設定をリモコンでおこないます。
HT-EQ の機能については 18 ページを参照してください。

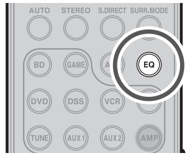


1. リモコンの**HT-EQ**ボタンを押します。

2. **HT-EQ**ボタンを押すごとに、OFFと ONが切り替わります。
ON：HT-EQを使用します。
OFF：HT-EQを使用しません。

ROOM EQ

AUTO SETUP 機能で設置した部屋の音響特性を補正する ROOM EQ（ルームイコライザー）機能の ON/OFF を切り替えます。



AUTO SETUP については 21 ページを参照してください。

1. リモコンの**EQ**ボタンを押します。

2. **EQ**ボタンを押すごとに、OFFと ONが切り替わります。
ON：ROOM EQ機能を使用します。
OFF：ROOM EQ機能を使用しません。

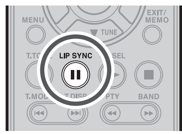
LIP SYNC（リップ・シンク）機能

LIP SYNC 機能は、音声信号を遅らせて出力することにより、音声映像との時間差を調整します。
LIP SYNC については 20 ページを参照してください。

1. リモコンの**LIP SYNC**ボタンを押します。

2. **LIP SYNC**ボタンを押すごとに、10msステップで調整することができます。

初期値は OFF（0ms）で、最大値は 200ms です。
ディスプレイやプロジェクター等の映像機器で映像を確認しながら調整してください。



バイリンガル機能

入力ソースが Dolby、DTS、AAC の 2ヶ国語音声入力のとき、再生する音声を設定することができます。



1. リモコンの**AUDIO**ボタンを押します。

2. **AUDIO**ボタンを押すたびに音声モードが切り替わります。

MAIN：

B I L M A I N

主音声（左 ch）が再生されます。

SUB：

B I L S U B

副音声（右 ch）が再生されます。

MAIN + Sub：

B I L M + S

主＋副音声が再生されます。

応用操作

ビデオコンバート機能

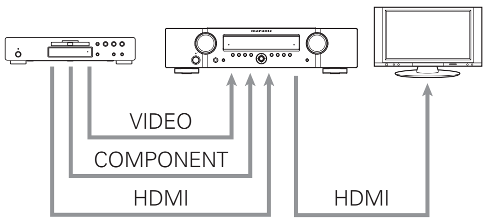
本機にはアナログビデオ入力（ビデオ入力またはコンポーネントビデオ入力）の映像信号を HDMI に出力するビデオコンバート機能を装備しています。
このため再生機器と本機の映像入力端子（ビデオ、コンポーネント）との接続方法に関わらず、本機の HDMI OUT 端子とモニター間を HDMI ケーブルを 1 本つなぐだけで視聴することができます。
（設定のしかたについては 18 ページを参照）

ご注意

- この機能は、スチル、早送り、逆再生等では、正常に再生されないことがあります。
- ビデオコンバート機能は、ご使用になるテレビ、プロジェクター等によっては同期ずれ等の不具合が発生する場合があります。
  このような場合はビデオコンバートの機能を OFF にしてください。

接続例

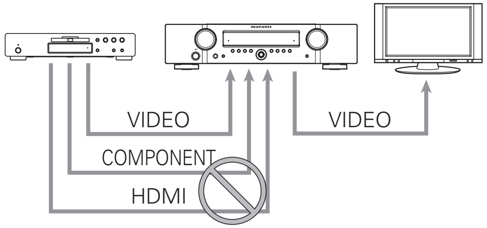
- **モニターを本機の HDMI OUT 端子に接続した場合**



ご注意

- HDMI OUT へのアップコンバート信号は、入力されたアナログビデオ信号の解像度で、そのまま出力されます。
  480i の解像度のビデオまたは、コンポーネントビデオ信号をアップコンバートするときは、480i の解像度に対応した映像モニター機器（テレビ）を本機に接続する必要があります。

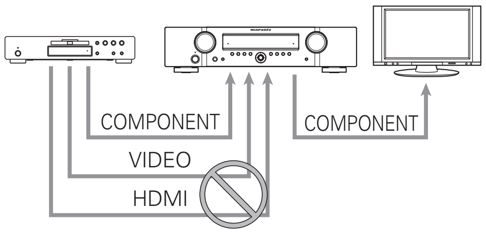
- **モニターを本機の VIDEO モニター端子に接続した場合**



ご注意

- 再生機器から入力される HDMI ビデオ信号とコンポーネントビデオ信号は本機の VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されません。

- **モニターを本機の COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子に接続した場合**



ご注意

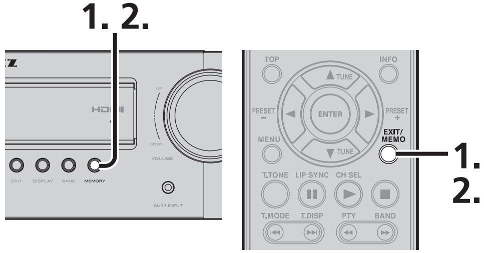
- 再生機器から入力される HDMI ビデオ信号とビデオ信号は本機の COMPONENT MONITOR OUT 端子から出力されません。

チューナー操作（プリセットメモリ）

本機では FM／AM の放送局をお好きな順序で 30 局までプリセットできます。
それぞれの放送局について、必要に応じて周波数と受信モードを記憶させることができます。

オートプリセットメモリ

この機能によって、FM バンドを自動的にスキャンして、適切な電波強度のあるすべての放送局をメモリに記録します。



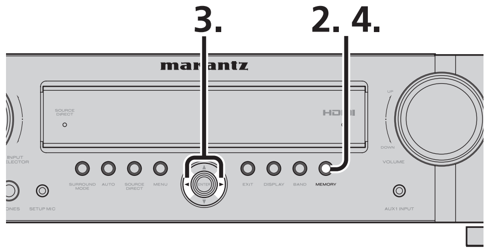
1. 本機の **MEMORY**ボタンまたはリモコンの **EXIT/MEMO**ボタンを 2秒以上押します。
   表示部に「AUTO MEM」と表示され、最も低い周波数からスキャンが開始されます。
2. 30個すべてのプリセットメモリが設定されたとき、またはオートスキャンがバンドの上限に達したときは、スキャンは自動的に停止されます。
   オートプリセットメモリを停止したい場合は、本機の **MEMORY**ボタンまたはリモコンの **EXIT/MEMO**ボタンボタンを押してください。

ご注意

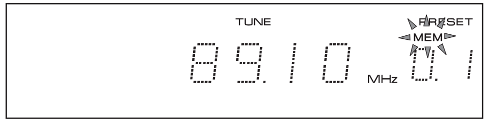
AM はオートプリセットできません。マニュアルプリセットで設定してください。

マニュアルプリセットメモリ

（本機で操作する場合）

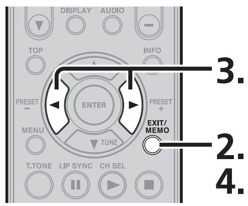


1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。
   （「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」の項参照）。
2. 本機の **MEMORY**ボタンを押します。表示部で MEMインジケーターが点滅を始めます。



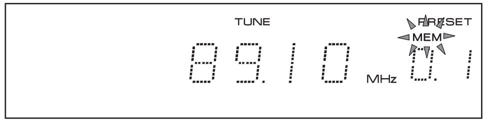
3. MEMインジケーターが点滅している間に ◀/▶カーソルボタンを押して、プリセット番号を選択します。
4. もう 1度 **MEMORY**ボタンを押して確定します。
   インジケーター部の点滅が止まり、放送局がご指定のプリセットメモリに保存されます。

（リモコンで操作する場合）



1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。
   （「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」の項参照）。

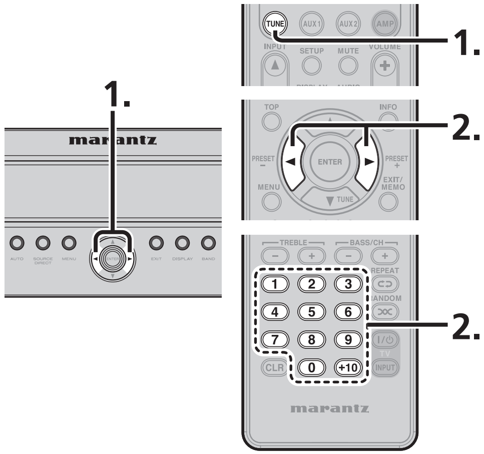
2. リモコンの**EXIT/MEMO**ボタンを押します。表示部で MEMインジケーターが点滅を始めます。



3. MEMインジケーターが点滅している間に◀/▶カーソルボタンを押して、設定したいプリセット番号を選択します。

4. もう一度**EXIT/MEMO**ボタンを押して確定します。

プリセット局の呼出



（本機で操作する場合）

1. 本機の◀/▶カーソルボタンを押して、呼び出したいプリセット局を選択します。

（リモコンで操作する場合）

1. リモコンの **TUNE**ボタンを 2回続けて押します。

2. ◀/▶カーソルボタンを押して、聴きたいプリセット局を選びます。
または数字ボタンを押してプリセット局を選びます。

リモコンの基本操作

通常モード

（マランツ AV 機器を操作する場合）

このリモコンには全部で 9 種類のリモートコードがプリセットされています。これらのリモートコードには、マランツの BD（ブルーレイ）、TV、DVD、VCR（ビデオデッキ）、DSS（衛星放送チューナー）、チューナー、CD、AUX2、および AMP（アンプ）が含まれます。

1. **ソース**ボタンを押します。
ここではDVDを操作する例です。
DVDボタンを1度押すと、リモコンがDVDの設定に変わり、DVDの操作ができるようになります。（31ページ参照）
本機の入力ソースを DVDに変えるには、2秒以内にもう一度 **DVD**ボタンを押します。このときコードが送信され、本機の入力ソースがDVDに変わります。

プリセット・モード

（マランツ製品以外の AV 機器を操作する場合）

このリモコンには、他社メーカーの AV 機器のリモコン・コードがプリセットされています。プリセットされているコードはテレビ、CD プレーヤー、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクプレーヤーおよび衛星放送チューナーです。設定は 2 つの方法で行うことができます。
プリセット・コードを設定したら、リモコンのソースボタンに以下のコードが設定されます。

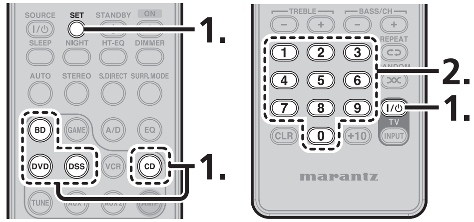
プリセットされているメーカー、機器、セットアップコードについては本書最後にあるセットアップコードリストをご覧ください。

リモコン・ソース名	対応するプリセット・コード	機器
TV	テレビ	テレビ
BD	ブルーレイディスクプレーヤー	ブルーレイディスクプレーヤー
DVD	DVD プレーヤー	DVDプレーヤー
CD	CD プレーヤー	CD プレーヤー
DSS	衛星放送チューナー	衛星放送チューナー機器

重要

- 一部のセットアップコードはお持ちの機器に対応していない場合があります。
- プリセット・コードはすべての機能を網羅しているわけではありません。
- 電池が少なくなっているとプリセットモードが正しく操作できないことがあります。

４ケタのコードでプログラミング



1. 操作したい機器のソースボタンを押し続け、SENDインジケーターが 2回点滅するまで同時に **SET**ボタンを押します。SETインジケーターが点滅します。
テレビの場合、**TV Power ON/OFF**ボタンと**SET**ボタンを押し続けてください。

2. 機器の4桁のコードを押します（42、43ページ参照）。
設定が正常に完了したら SENDインジケーターが2回点滅します。

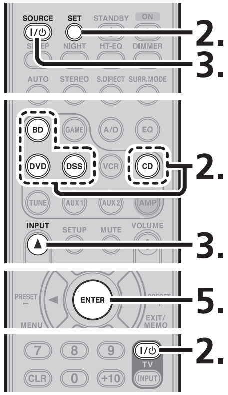
ご注意

SEND インジケーターが 2 回点滅しない場合は手順 1 と 2 を繰り返し、同じコードをもう 1 度入力してください。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

応用操作

コード表のスキャン



1. 操作する機器の電源を入れます。

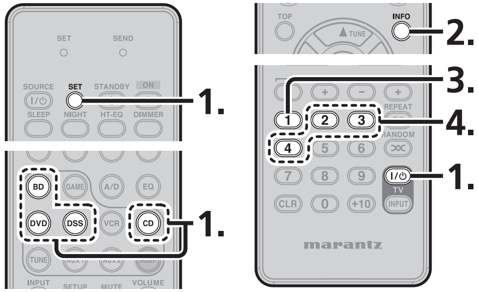
2. 操作する機器の**ソース**ボタンを押し続け、SENDインジケーターが 2回点滅するまで同時に **SET**ボタンを押します。SETインジケーターが点滅します。
テレビの場合、**TV Power ON/OFF**ボタンと**SET**ボタンを押し続けてください。

3. リモコンを機器の方に向け、**INPUT ▲**ボタンと **SOURCE ON/OFF**ボタンをゆっくりと交互に押します。
テレビの場合、**INPUT ▲**ボタンと **TV Power ON/OFF**ボタンを交互に押し続けてください。

4. 機器の電源が切れたらこの操作を停止します。

5. **ENTER**ボタンを 1度押してリモートコードをロックします。

リモートコードの確認



1. 操作したい機器の**ファンクション**ボタンを押し続け、SENDインジケーターが 2回点滅するまで同時に SETボタンを押します。SETインジケーターが点滅します。
テレビの場合、**TV Power ON/OFF**ボタンと**SET**ボタンを押し続けてください。

2. **INFO**ボタンを押します。SENDインジケーターが 2回点滅します。

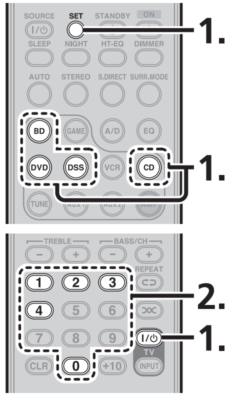
3. 1桁目のコードを確認するには 1を押します。3秒待って SENDインジケーターの点滅回数を数え(例: 3回点滅 = 3)、この数字を書き留めます。

ご注意

コードの桁が 0 の場合は、SEND インジケーターは点滅しません。

4. 残りのコードを確認するには、手順**3.**に従って、2桁目は**2**、3桁目は**3**、4桁目では**4**を押して確認します。

リモートコードのリセット



1. 操作したい機器のソースボタンを押し続け、SENDインジケーターが 2回点滅するまで同時に **SET**ボタンを押します。SETインジケーターが点滅します。
テレビの場合、**TV Power ON/OFF**ボタンと**SET**ボタンを押し続けてください。

2. 以下のコードを押してリセットします。
テレビ ： 1000
DVD ： 2000
CD ： 3000
DSS ： 4000
BD ： 5000
SENDインジケーターが 2回点滅します。

ご注意

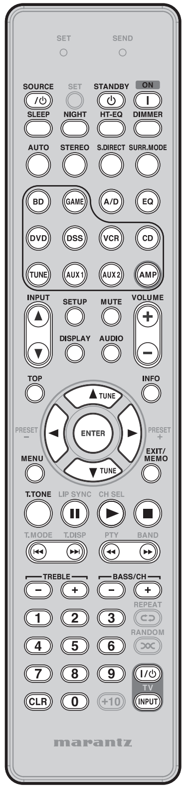
リセットが終了すると、選択したソースのボタンが初期コードとなります。

リモコンでマランツ製 AV 機器を操作する

付属リモコンを使って、マランツ製品の基本操作を行うことができます。

1. **ソース**ボタンを押してリモコンを操作したいソース機器のモードに切り替えます。
2. 以下の表を参照し、各操作ボタンを押してソース機器を操作します。
   - 各ソース機器の詳細な操作については各ソース機器の取扱説明書を参照して下さい。
   - 一部のソース機器は本リモコンから操作できないことがあります。

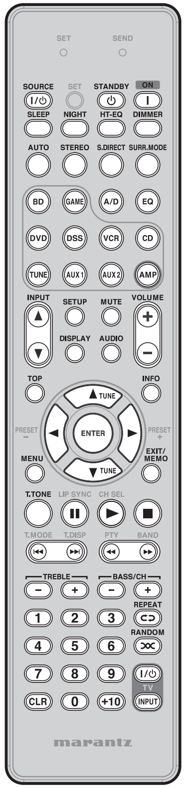
BLU-RAY DISC モード



SOURCE	Blu-ray の電源オン／スタンバイ
STANDBY	Blu-ray の電源をスタンバイ
ON	Blu-ray の電源をオン
SLEEP	アンプモードの機能が有効
NIGHT	
HT-EQ	
DIMMER	
AUTO	
STEREO	
S.DIRECT	
SURR	
SOURCE	
A/D	
EQ	
AMP	
INPUT ▲/▼	
SETUP	Blu-ray の設定メニューを呼び出し
MUTE	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	
DISPLAY	
AUDIO	
TOP	Blu-ray のトップメニューを呼び出し
INFO	Blu-ray のディスク情報を表示 (*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	Blu-ray のディスクメニューを呼び出し
EXIT	Blu-ray の設定メニューを終了
T-TONE	アンプモードの機能が有効
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮ / ⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀ / ▶▶	早戻し／早送り
TREBLE+/-	アンプモードの機能が有効
BASS+/-	
0-9	数字を入力 (*)
CL	入力を取り消し (*)
⊂⊃	リピート再生 (*)
⤨	ランダム再生 (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

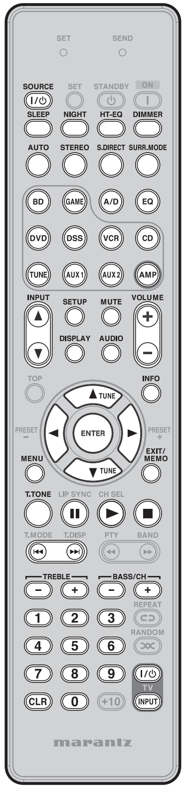
DVD モード



SOURCE	DVD の電源オン／スタンバイ
STANDBY	DVD の電源をスタンバイ
ON	DVD の電源をオン
SLEEP	アンプモードの機能が有効
NIGHT	
HT-EQ	
DIMMER	
AUTO	
STEREO	
S.DIRECT	
SURR	
SOURCE	
A/D	
EQ	
AMP	
INPUT ▲/▼	
SETUP	DVD の設定メニューを呼び出し
MUTE	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/-	
DISPLAY	
AUDIO	
TOP	DVD のトップメニューを呼び出し
INFO	DVD のディスク情報を表示 (*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	DVD のディスクメニューを呼び出し
EXIT	DVD の設定メニューを終了
T-TONE	アンプモードの機能が有効
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮ / ⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀ / ▶▶	早戻し／早送り
TREBLE+/-	アンプモードの機能が有効
BASS+/-	
0-9,+10	数字を入力 (*)
CL	入力を取り消し (*)
⊂⊃	リピート再生 (*)
⤨	ランダム再生 (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

DSS モード

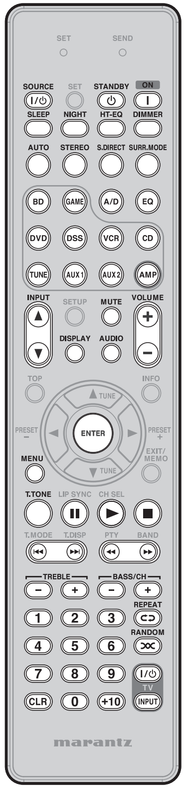


SOURCE	衛星放送チューナーの電源オン／スタンバイ
SLEEP	アンプモードの機能が有効
NIGHT	
HT-EQ	
DIMMER	
AUTO	
STEREO	
S.DIRECT	
SURR	
SOURCE	
A/D	
EQ	
AMP	
INPUT ▲/▼	
SETUP	
MUTE	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/-	
DISPLAY	
AUDIO	
INFO	衛星放送チューナーの情報を表示 (*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	メニューを呼び出し
EXIT	メニューを終了
T-TONE	アンプモードの機能が有効
TREBLE+/-	
BASS+/-	
0-9	数字を入力 (*)
CL	入力を取り消し (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

応用操作

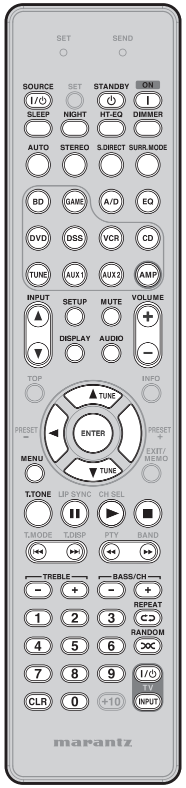
CD モード



SOURCE	CD の電源オン／スタンバイ
STANDBY	CD の電源をスタンバイ
ON	CD の電源をオン
SLEEP	
NIGHT	
HT-EQ	
DIMMER	
AUTO	
STEREO	
S.DIRECT	
SURR	
SOURCE	アンプモードの機能が有効
A/D	
EQ	
AMP	
INPUT ▲/▼	
MUTE	
VOLUME+/-	
DISPLAY	
AUDIO	
ENTER	選択した項目を決定
MENU	メニューを呼び出し
T-TONE	アンプモードの機能が有効
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮ / ⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀ / ▶▶	早戻し／早送り
TREBLE+/-	アンプモードの機能が有効
BASS+/-	
0-9,+10	数字を入力 (*)
CL	入力を取り消し (*)
⊂⊃	リピート再生 (*)
⤨	ランダム再生 (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

AUX2 モード



SOURCE	ユニバーサルドッグの電源オン／スタンバイ
STANDBY	ユニバーサルドッグの電源をスタンバイ
ON	ユニバーサルドッグの電源をオン
SLEEP	
NIGHT	
HT-EQ	
DIMMER	
AUTO	
STEREO	
S.DIRECT	アンプモードの機能が有効
SURR	
SOURCE	
A/D	
EQ	
AMP	
INPUT ▲/▼	
SETUP	ユーザーインターフェースの変更
MUTE	
VOLUME+/-	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	
AUDIO	
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	メニューを呼び出し
T-TONE	アンプモードの機能が有効
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮ / ⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀ / ▶▶	早戻し／早送り
TREBLE+/-	アンプモードの機能が有効
BASS+/-	
⊂⊃	リピート再生
⤨	ランダム再生
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

(*) AUX2モードでは他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

困ったときは

本機が正しく動作しない場合は、下記の表に示す項目をご確認ください。
下記の項目を確認しても直らない場合は、直ちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げいただいた販売店、当社のお客様ご相談センター、またはサービスセンターにご相談ください。

全般

現象	原因	処置	参照ページ
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードの接続をご確認ください。	11
		電源コードを本体にしっかり差し込んでください。	11
		電源プラグをコンセントへしっかり差し込んでください。	11
音がでない。	入力ケーブルの接続が不完全である。	本機とソース機器（CD プレーヤー等）を接続する入力ケーブルの接続を接続図を参照して点検してください。	8、9、10
	インプットセレクターの位置が不適当である。	ご使用のソース機器（CD プレーヤー等）を接続した入力端子にインプットセレクターを合わせて下さい。	12
	ボリュームが絞ってある。	ボリュームを調節してください。	12
	ミュート機能が動作している。	ミュート機能を解除してください。	12
	ヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを取り外してください。	27
特定のスピーカーから音がでない。	スピーカーが正しく接続されていない。	接続図を参照して、スピーカーを正しく接続してください。	7
音像が正しく定位しないで不自然。	• 一部のスピーカーケーブルの極性（+/–）が違っている。 • スピーカーの配置とスピーカーケーブルの接続が間違っている。	電源コードを抜き、スピーカーケーブルの接続を確認してください。	7
スタンバイインジケーターがゆっくり点滅している。（1 秒間に 2 回）	• スピーカーケーブルがショートしている。 • 本機の性能を上回る大音量で再生した。 • 規定より小さいインピーダンスのスピーカーを使用している。 • 本機を狭いラックなどに入れて使用したため異常に内部温度が上昇した。	• 電源コードを抜き、スピーカーケーブルの接続を確認してください。 • 音量を少し小さくしてください。 • 必ず規定のインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • 安全の為に本機の周囲に適切な隙間を空けてください。 • 電源を入れるにはリモコンを使用してください。 • 再度同じ症状になる場合には、電源コードを抜き最寄りのサービスステーションに修理を依頼してください。	2、7

現象	原因	処置	参照ページ
スタンバイインジケーターが速く点滅している。（1 秒間に 8 回）	本機が故障している可能性があります。	直ちに電源コードを抜き、最寄りのサービスステーションに修理を依頼してください。	–
表示部が異常な表示をしている。	本機はコンピューターを使用しているため、静電気や落雷などによりまれに誤動作することがあります。	電源コードを抜き、再度差し込んでください。	11
リモコンで本機の操作ができない。	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。	2
	リモコンの動作範囲から外れている。	動作範囲でご使用ください。	2
	本機とリモコンの間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。	2
	本機の受光部に強い光が当たっている。	受光部に強い光が当たらないようにしてください。	2
	リモコンのモードが正しく設定されていない。	リモコンの AMP ボタンを押してから操作してください。	6
	IR モードが DISABLE に設定されている。	IR モードが ENABLE に設定してください。	15
入力信号がないときに、シャーというノイズ（残留ノイズ）が出る。	サラウンド用の DSP を搭載しておりますので、多少目立つことがあります。	2ch ソースをお聞きのときノイズが気になる場合は、ソースダイレクトモードでお聞きください。	–
本機の内部からブーンという音がする。	家庭内の電源事情により、多少音がすることがあります。	電熱器などの使用を止めてみてください。	–

サラウンド

現象	原因	処置	参照ページ
フロントスピーカーから音が出ない。	AM 放送やテレビ音声などモノラルソースを STEREO 以外のサラウンドモードで再生している。	センタースピーカーから音が出ます。故障ではありません。	7
センタースピーカーから音が出ない。	サラウンドモードが STEREO になっている。	サラウンドモードで STEREO が選択されていると、センタースピーカーから音声は出力されません。他のサラウンドモードを設定してください。	37
	SPEAKER CONFIG メニューで、CENTER = NO が選択されている。	CENTER を YES に設定してください。	21
サラウンドスピーカーから音が出ない。	サラウンドモードが STEREO になっている。	サラウンドモードに STEREO が選択されていると、サラウンドスピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。	–
	SPEAKER CONFIG メニューで、SURROUND = NO が選択されている。	SURROUND を YES に設定してください。	21

困ったときは

現象	原因	処置	参照ページ
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドモードが PLⅡx モードなど 6.1 または 7.1 チャンネルのサラウンドに設定されていない。	サラウンドモード表をご覧下さい。	37
	SPEAKER CONFIG メニューで SURR.B = NO が選択されている。	SURROUND BACK を 1CH または 2CH に設定してください。	21
	サラウンドバックスピーカーを 1CH で使用しているのに SURROUND BACK R に接続されている。	SURROUND BACK を 1CH に設定したときは SURROUND BACK L にスピーカーを接続してください。	7、21
サブウーファーから音がでない。	• サブウーファーの電源が入っていない。 • サブウーファーのレベルが小さくなっている。 • SPEAKER CONFIG メニューで SUBWOOFER = NO が選択されている。	• サブウーファーの電源を入れてください。 • サブウーファーのレベルを上げてください。 • SUBWOOFER = YES を選択してください。	21
	SPEAKER X-OVER メニューで FRONT：FULL RANGE に設定し、SYSTEM SETUP メニューの SUB W MODE NORMAL に設定し、アナログまたは PCM ソースを再生している。	SUB W MODE を SW PLUS + に設定するとフロントおよびサブウーファーから低域成分が再生されますが、干渉により不自然な音になることがあります。	18、22
	再生しているソースに LFE または低域成分が入っていない。		—
Neo:6 モードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS 入力信号、PCM 入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。	—
ナイトモードが機能しない。（ナイトモード搭載機のみ）	ドルビーデジタル以外のソースを再生している。	ドルビーデジタルのソースを使用してください。	—
希望するサラウンドモードを選択できない。	入力信号およびスピーカーの設定により、選択できるサラウンドモードに限りがあります。	サラウンドモード表をご覧下さい。	37
DTS エンコードされた CD などの再生中にノイズが発生する。	• アナログ接続をしている。 • サーチ再生をしている。 • プレーヤーで不適切なデジタル処理（レベル調整、サンプリング周波数変換など）をしている。	• デジタル（光または同軸）または HDMI 接続をしてください。 • 機器によりサーチ再生中にノイズがでることがありますが、故障ではありません。 • プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	8、10

現象	原因	処置	参照ページ
Dolby digital、DTS などの音声が再生できない。（インジケーターが点灯しない）	• プレーヤーなどのデジタル信号出力が PCM に設定されている。 • アナログ接続をしている。	• プレーヤーなどの取扱説明書をご覧ください。 • デジタルまたは HDMI 接続をしてください。	—
Dolby TrueHD、dts HD などの音声が再生できない。（インジケーターが点灯しない）	• プレーヤーなどのソース機器がこれらの音声モード出力に対応していない。 • プレーヤーの音声出力が正しく設定されていない。 • HDMI 接続をしていない。	• Dolby True HD、dts HD 出力に対応した（HDMI：Version 1.3a 以降）機器を接続してください。 • ソース機器がこれらの音声モードを出力できるように出力設定をしてください。	10
DVD プレーヤーで CD 再生時に、トラックスキップなどを行うと、曲の頭が少し欠けて再生される。	プレーヤーによってはトラックスキップ時にデジタル信号が途切れることがあります。サラウンドシステムを判別するために、少しだけ曲の頭が途切れることがあります。	この様な DVD プレーヤーを使用する場合、アナログ接続をして頂くと問題なく再生することができます。	9

ビデオ

現象	原因	処置	参照ページ
モニターテレビに映像がでない。	• モニターテレビの接続や入力切り替えが正しくない。 • ソース機器とは HDMI 接続しているが、モニターテレビとは HDMI 接続をしていない。	• モニターテレビの取扱説明書をご覧ください。 • モニターテレビと HDMI 接続をしてください。	10
音声もしくは映像が選択したソースと一致しない。	入力ケーブルが正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブルを正しく接続してください。	8、9、10
VCR などに録画できない。	• 録画機器とソース機器の接続端子があっていない。 • コピープロテクト信号が入っている。	• 録画機器の接続端子とソース機器の接続端子を合わせる。（ビデオ） • コピープロテクト信号が入っているビデオ信号は録画することはできません。	9
コンバートしたビデオ信号が乱れる。	ビデオデッキで特殊再生を行うとコンバートが正常に行われず、ビデオ信号が乱れたり映らなくなることがあります。	ソース機器と同じフォーマット（ビデオまたはコンポーネント）でモニターテレビを接続してください。	9

HDMI

現象	原因	処置	参照ページ
HDMI 接続で画面が映らない。	HDMI ケーブルが正しく接続されていない。	HDMI ケーブルの接続をご確認ください。	10
	規格外の HDMI ケーブルで接続している。	安定した動作や、画質劣化などの防止のため、5 m以下のケーブルの使用を推奨いたします。	10
	HDMI で接続している機器間の接続認証がされない。	HDMI で接続している全ての機器の電源を入れ直してください。	–
	HDMI の設定が正しく設定されていない。	本機の HDMI 設定を正しく行ってください。	–
		映像機器（TV、プロジェクター等）の取扱説明書を参照の上、HDMI 入力を設定してください。	–
		ソース機器（Blu-Ray Disc プレーヤー、STB 等）の取扱説明書を参照の上、HDMI 出力を有効になるよう設定してください。	18
		HDMI で接続している機器の取扱説明書を参照の上、両機器に合致する解像度に設定してください。	–
	映像機器（TV、プロジェクター等）に DVI コネクタで接続している。	HDCP に対応した映像機器を接続してください。	–
	本機の電源が切られている。（本機がスタンバイ状態では HDMI 接続は有効になりません。）	本機の電源を入れてください。	11
HDMI 接続で映像が映るまで時間がかかる。	HDMI で接続している機器間で接続認証をおこなっています。	接続される機器には接続認証に時間がかかる場合があります、故障ではありません。	–
HDMI 接続で音声が再生されない。	HDMI の設定が正しく設定されていない。	ソース機器（Blu-Ray、STB 等）の取扱説明書を参照の上、HDMI 音声出力を有効になるよう設定してください。	18
		ソース機器（Blu-Ray Disc プレーヤー、STB 等）の取扱説明書を参照の上、HDMI 音声出力設定を本機の対応信号に合致するよう設定してください。	–
	SYSTEM SETUP の HDMI AUDIO OUT が ON に設定されている。	HDMI AUDIO OUT が ON に設定されている時は本機からは音がでません。OFF に設定してください。	18
HDMI 接続したモニターTV より音がでない。	SYSTEM SETUP の HDMI AUDIO OUT が OFF に設定されている。	OFF モードの時はモニターテレビからは音がでません。ON に設定してください。	18
HDMI 接続で画面、音声が安定しない。（ノイズが出る、途切れる等）	長いケーブルで接続している。	短いケーブルをご使用ください。5 m以下のケーブルのご使用を推奨いたします。	10
		カテゴリー2（ハイスピード対応）のケーブルをご使用ください。	10

チューナー

Symptom	Cause	Solution	Page
AM や FM が受信できない	アンテナの接続が不完全。	AM アンテナと FM アンテナを、AM アンテナ端子と FM アンテナ端子に正しく接続してください。	11
AM 受信中にノイズが聞こえる。	他の機器の影響を受けている。	AM アンテナの設置場所を変えてください。	11
FM 受信中にノイズが聞こえる。	放送局からの電波が微弱。	FM 屋外アンテナを設置してください。	11

異常動作のときは

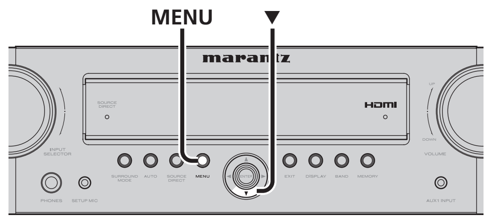
本機表示部に異常な表示や誤動作表示などをしている場合、すぐに主電源を切ってください。再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

メモリバックアップについて

本機の主電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには（リセット）

「故障かな？と思ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は、本機のリセットを試してみてください。但しリセット行うと、セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定の情報が消去されますことをご了承ください。



1. 電源が入っていることを確認します。
2. 本機の **MENU**ボタンを押しながら、▼カーソルボタンを3秒以上押します。
   FL Displayに“M-CLEAR”と表示した後にSTANDBY状態となり、各種設定された内容が初期化され、工場出荷時の状態に戻ります。

その他

サラウンドモード

本機には多くのサラウンドモードが搭載されています。これは再生するソースの内容に応じて、多様な音声効果を再現するためです。
利用可能なサラウンドモードは、入力信号とスピーカーの設定に応じて制限される場合があります。

使用するサラウンドモードと入力信号について

サラウンドモードは本機のサラウンドモード切り替えボタンか、リモコンを使って選択します。また、再生される音声は、選択したサラウンドモードと入力信号との関係に応じて変化します。
関係は次の表のとおりです。

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部
			L/R	C	SL/SR	SBL/SBR	SubW	信号形式インジケーター
AUTO	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD D, EX
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD D
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	O	-	-	-	O	DD D
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	O	O	O	O	O	DD D
	Dolby Digital Plus (2ch)	DolbyDigital +	O	-	-	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	O	O	O	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital +	O	O	O	O	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	DolbyDigital +	O	O	O	O	O	DD D, +
	Dolby TrueHD (2ch)	DolbyTrueHD	O	-	-	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	O	O	O	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD	O	O	O	O	O	DD HD
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD	O	O	O	O	O	DD HD
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	DTS, ES
	DTS 96/24	DTS-96/24	O	O	O	-	O	DTS, 96/24
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	DTS
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	O	-	-	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	O	O	O	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	O	O	O	O	O	DTS, HD
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	O	O	O	O	O	DTS, HD
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	O	O	O	O	O	
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	O	O	O	O	O	
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	O	-	-	-	O	
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	O	-	-	-	O	
	Analog	Stereo	O	-	-	-	O	
SOURCE DIRECT	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD D, EX
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD D
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	O	-	-	-	O	DD D
	Dolby D (2ch Surr)	Dolby Digital 2.0	O	-	-	-	O	DD D
	Dolby Digital Plus (2ch)	DolbyDigital +	O	-	-	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	O	O	O	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital +	O	O	O	O	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	DolbyDigital +	O	O	O	O	O	DD D, +
	Dolby TrueHD (2ch)	DolbyTrueHD	O	-	-	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	O	O	O	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD	O	O	O	O	O	DD HD
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD	O	O	O	O	O	DD HD
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	DTS, ES
	DTS 96/24	DTS-96/24	O	O	O	-	O	DTS, 96/24
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	DTS
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	O	-	-	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	O	O	O	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	O	O	O	O	O	DTS, HD
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	O	O	O	O	O	DTS, HD
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	O	O	O	O	O	
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	O	O	O	O	O	
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	O	-	-	-	O	
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	O	-	-	-	O	
	Analog	Stereo	O	-	-	-	O	
DOLBY (PLIIx movie) (PLIIx music) (PLIIx game)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD D, EX
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD D
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1 + PLIIx	O	O	O	O	O	DD D
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	DD D
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	DD D

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部
			L/R	C	SL/SR	SBL/SBR	SubW	信号形式インジケーター
DOLBY (PLIIx movie) (PLIIx music) (PLIIx game)	Dolby Digital Plus (2ch)	DolbyDigital +	O	-	-	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	O	O	O	-	O	DD D, +
	Dolby TrueHD (2ch)	DolbyTrueHD	O	-	-	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	O	O	O	-	O	DD HD
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + PLIIx	O	O	O	O	O	DD PLIIx
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	DD PLIIx
	Analog	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	DD PLIIx
DTS (Neo:6 Cinema) (Neo:6 Music)	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	DTS, ES
	DTS 96/24	DTS-96/24	O	O	O	-	O	DTS, 96/24
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	DTS
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	O	-	-	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	O	O	O	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	O	O	O	O	O	DTS, HD
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	O	O	O	O	O	DTS, HD
	PCM (Audio)	Neo:6	O	O	O	O	O	NEO:6
	Analog	Neo:6	O	O	O	O	O	NEO:6
STEREO	Dolby Surr.EX	Stereo	O	-	-	-	O	DD D, EX
	Dolby D (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD D
	Dolby D (2ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD D
	Dolby D (2ch Surr)	Stereo	O	-	-	-	O	DD D
	Dolby Digital Plus (2ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD D, +
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD D, +
	Dolby TrueHD (2ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (6.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD HD
	Dolby TrueHD (7.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD HD
	DTS-ES	Stereo	O	-	-	-	O	DTS, ES
	DTS 96/24	Stereo	O	-	-	-	O	DTS, 96/24
	DTS (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DTS
	DTS-HD (2ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (6.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DTS, HD
	DTS-HD (7.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DTS, HD
	Multi Ch-PCM	Stereo	O	-	-	-	O	
	Multi Ch-PCM 96kHz	Stereo	O	-	-	-	O	
	PCM (Audio)	Stereo	O	-	-	-	O	
	PCM 96kHz	Stereo	O	-	-	-	O	
	Analog	Stereo	O	-	-	-	O	
MULTI CH STEREO	PCM (Audio)	Multi channel stereo	O	O	O	O	O	
	PCM 96kHz	Multi channel stereo	O	O	O	O	O	
	Analog	Multi channel stereo	O	O	O	O	O	
VIRTUAL	PCM (Audio)	Virtual	O	O	O	O	O	
	PCM 96kHz	Virtual	O	O	O	O	O	
	Analog	Virtual	O	O	O	O	O	

ご注意

- Dolby Digital (2ch: Lt/Rt) : ドルビーサラウンドフラグスピーカーを立てた信号はすべてセットされます。
- DVDディスクにサラウンドデータがない場合、サラウンドスピーカー、センタースピーカー、サブウーファーから音声は出力されません。
- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD信号を再生中は対応した再生モードとSTEREO以外のSURROUND MODEを選択することはできません。
  また、STEREO以外のSURROUND MODEが選択されていても、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD信号を再生した場合はそのSURROUND MODEは無効となり、対応した再生モードの処理になります。

略語

L/R： フロント左 / 右スピーカー
C： センタースピーカー
SL/SR： サラウンド左 / 右スピーカー
SBL/SBR： サラウンドバック左 / 右スピーカー
SubW： サブウーファー

AUTO

このモードでは、ドルビーデジタル、ドルビーTrueHD、ドルビーデジタルプラス、ドルビーデジタルEX、ドルビーサラウンド、DTS、DTS-HD、DTS-ES、AAC、PCM、96kPCMなどの入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
入力信号がPCM信号の場合はステレオ再生を行います。ドルビーデジタルやDTS、AACの場合はそれぞれのチャンネル数に応じた再生を行います。

SOURCE DIRECT（ソースダイレクト）

このモードでは、スピーカー設定などによる周波数フィルターやトーンコントロールなどの付加処理をバイパスし、入力信号を最短処理にて出力します。

ご注意

- トーンコントロール、イコライザーその他の追加の処理は停止します。

Dolby Digital EX/DTS-ES

Dolby Digital EX

このモードでは、映画館で再生されるDolby Digital Surround EXテクノロジーでエンコードされた映画のサウンドトラックは、プログラムのミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。

サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルにより、現在利用可能なフロント左、フロントセンター、フロント右、サラウンド右、サラウンド左、サブウーファーチャンネルに加えて、リスナーの背後に音声が配置されます。
この追加のチャンネルによって、より繊細な後方音声イメージをリスナーに与えることができ、それによってこれまでにない奥行きや広がりのある音像がもたらされます。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、Dolby Digital EXは利用できません。

DTS-ES（Discrete 6.1, Matrix 6.1）

このモードでは、DTS 5.1ch形式にサラウンドセンターチャンネル音声を追加して音像定位を改善し、6.1ch再生時の音像移動をより自然なものにします。
本機にはDTS-ESデコーダーが組み込まれており、DVDなどのDTS-ES DiscreteエンコードとDTS-ES Matrixエンコードのソースを処理することができます。
DTS-ES Discrete 6.1の特徴は、サラウンドバックチャンネルを含むすべてのチャンネルの独立したデジタル録音と、より質の高いオーディオ再生です。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、DTS-ESは利用できません。

Dolby MODE

（Dolby Digital、Pro Logic Ⅱx MOVIE、Pro Logic Ⅱx MUSIC、Pro Logic Ⅱx GAME）

このモードは、Dolby DigitalとDolby Surroundでエンコードされた入力ソースに使用します。

DOLBY DIGITAL

このモードは、Dolby Digitalでエンコードされた入力ソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた5.1ch Dolby Digitalソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFEチャンネルからの音声が得られます。このモードではDolby Digital EXのオーディオはデコードできません。
Dolby Pro Logic Ⅱxには次の5つのモードがあります。

Pro Logic Ⅱx MOVIE

このモードでは、Dolby Surroundエンコードされたステレオ映画のサウンドトラックから、6.1chもしくは7.1chのサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx MUSIC

このモードではCD、テープ、FM、テレビ、ステレオビデオなど従来型の（アナログもしくはデジタルの）ステレオソースから、6.1chもしくは7.1chのサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx GAME

このモードでは、サラウンド低域をシステムのサブウーファーに割り振ることによって、強い低域サラウンド効果を再現します。

5.1ch＋Pro Logic Ⅱx Movie

このモードでは、映画サウンドトラックの5.1chソースから、7.1chのサラウンド音声が得られます。

5.1ch＋Pro Logic Ⅱx Music

このモードでは、5.1chのサウンドトラック・ソースから、6.1chもしくは7.1chのサラウンド音声が得られます。

ご注意

- SPEAKER SETUPメニューでSURR. Bを“NONE”に設定したときは、Pro Logic Ⅱxモードは Pro Logic Ⅱモードとしてデコードします。（33ページ参照）
- Pro Logic ⅡxモードはDolby Digital、HDCD、PCMのいずれかの形式でエンコードされた、2ch入力信号に対して利用できます。

dts

dts, Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードはDVD、CDのようなDTSエンコードされたソースの視聴用です。Neo:6は2chソースの視聴用です。

dts

このモードはdtsマルチチャンネルエンコードされたソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた5.1ch dtsソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFEチャンネルからの音声が得られます。
このモードではDTS-ESでのデコードは利用できません。
またアナログ入力を選択したときは、DTSモードは利用できません。

Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードでは高精度デジタルマトリックステクノロジーを使用して、2ch信号を6ch信号にデコードします。
DTS Neo:6デコーダーには、チャンネルの周波数特性ばかりでなくチャンネルセパレーションにおいてもほぼディスクリートであるという特性があります。
再生する信号に応じて、DTS Neo:6は映画再生用に最適化されたNeo:6 Cinemaモードか、音楽再生用に最適化されたNeo:6 Musicモードのいずれかを使用します。

ご注意

- Neo:6モードは、Dolby Digital、HDCD、PCMのいずれかの形式にエンコードされた2ch入力信号の場合に利用できます。

その他

STEREO

このモードでは、すべてのサラウンド処理が省略されます。
ステレオソースで、PCM オーディオやアナログステレオが入力されたときは、左チャンネルと右チャンネルが通常の再生を行います。
Dolby Digital と DTS ソースの場合は、5.1ch が 2ch ステレオに変換されます。96 kHz の PCM ソースは、ステレオモードで再生できます。

MULTI CH（STEREO）

このモードは、2ch ソースからより広く、より奥行きがあり、より自然な音場を作成する場合に使用します。
そのような音場は、左チャンネル信号を左フロントスピーカーと左サラウンドスピーカーの両方に、右チャンネル信号を右フロントスピーカーと右サラウンドスピーカーの両方に振り分けることによって実現されます。さらにセンターチャンネルでは、右チャンネルと左チャンネルを融合した音声が再生されます。

MPEG-2 AAC

BS デジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2 規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2ch ステレオ音声に加え、5.1ch サラウンド音声や多言語放送を可能にしています。

ご注意

DTS について

- DTS 信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。
  DTS-CD や DTS-LD を再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されていることがあります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用ください。
  上記ノイズ出力の理由により、本機で DTS-CD や DTS-LD を再生中は、デジタル、アナログ入力の切り替え動作などを禁止している場合があります。一度プレーヤー側を STOP 状態にしてから行ってください。
- お手持ちのプレーヤーによっては、DTS 再生をすると短いノイズが発生する場合があります。これは動作不良ではありません。
- VCR OUT 端子からは、アナログ音声信号だけが出力されます。これらの端子を使用して DTS 対応の CD や LD から録音しないでください。DTS エンコードされた信号は、ノイズとして録音されてしまいます。

96 kHz PCM オーディオについて

- DVD ビデオ／オーディオディスクの場合のように、PCM 信号をサンプリング周波数 96 kHz で再生するときは、AUTO モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモード、ステレオモードを使用できます。
- お手持ちの DVD プレーヤーによっては、デジタル出力が制限されることがあります。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
- DVD ディスクの中にはコピープロテクト機能を持つものがあります。このようなディスクを使用したときは、96 kHz の PCM 信号は DVD プレーヤーから出力されません。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

サウンドについて

dts-HD Master Audio
dts-HD High Resolution Audio

"DTS" "DTS-HD マスターオーディオ" および "DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ" は、Digital Theater System, Inc. の登録商標または商標です。

DTS-HD マスターオーディオ

DTS-HD マスターオーディオは、プロフェッショナルスタジオで作られるマスター音源を、その品質のまま、データの損失なしにリスナーまで届けることのできる技術です。DTS-HD マスターオーディオは、96 KHz/24 bit では 7.1 チャンネル、192kHz/24bit では 6 チャンネル音声をオリジナル音源のデータを欠損させせることなく伝送することを可能にしています。DTS-HD マスターオーディオは、音楽や映画の音声の作り手であるアーティストの意図したとおりの音声を受け手に届けるための貴重な技術であるといえましょう。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ

DTS-HD ハイレゾリューション・オーディオは、最大 7.1 チャンネルまでの音声をほぼオリジナルと区別できないハイクォリティで伝送することが可能なフォーマットです。DTS-HD ハイレゾリューション・オーディオは 96 KHz/24 bit の 7.1 チャンネルの音声を伝送可能にしています。

DOLBY TRUEHD

DOLBY DIGITAL PLUS

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、およびダブル D 記号および"AAC" ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

ドルビー True HD

ドルビー TrueHD は、次世代光ディスクメディアに採用されているロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。ドルビー TrueHD はスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現します。HD 映像と組み合わせることにより、ドルビー TrueHD はこれまで想像できなかったほどハイクオリティなホームシアター体験を提供します。96 kHz/24 bit では最大 8 チャンネル、192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声の記録が可能です。

ドルビーデジタルプラス

ドルビーデジタルを高音質・高機能に進化させたドルビーデジタルプラスは、HD クオリティのデジタル TV 放送や光ディスクメディア、オンラインコンテンツなどの A/V エンタテインメントにさらにリッチなサラウンドサウンドを提供するための柔軟性と効率性を備えています。ドルビーデジタルプラスの優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大 7.1 チャンネルの高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

AAC（Advanced Audio Coding）

BS デジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2 規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2CH ステレオ音声に加え、5.1CH サラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

5848391	5,291,557	5,451,954
5,357,594	5 752 225	5,394,473
5,633,981	5 297 236	4,914,701
5,579,430	08/678,666	98/03037
98/03036	5,227,788	5,285,498
5,781,888	08/039,478	08/211,547
08/894,844	5,299,238	5,299,239
5,490,170	5,264,846	5,268,685
5,548,574	5,717,821	08/937,950
08/576,495	08/392,756	

5 400 433	5,222,189
5,583,962	5,274,740
5,235,671	07/640,550
97/02875	97/02874
5,481,614	5,592,584
5,703,999	08/557,046
5,299,240	5,197,087
5,375,189	5,581,654
05-183,988	08/506,729

HDMI

"HDMI" "HDMI" および "High-Definition Multimedia Interface" は HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

HDMI について

HDMI とは従来の DVI（Digital Visual Interface）規格をさらに発展させた新しい規格です。映像信号に加えてオーディオ信号をデジタルで伝送する機能が追加されています。音声／映像用に複数のケーブルが必要だったものが HDMI ケーブル 1 本で接続ができます。
本機の HDMI 入出力端子は Ver.1.3a に対応しています。
※ HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

著作権保護について

本機は HDCP（High-band width Digital Content Protection）に対応しています。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション（著作権保護）技術です。デジタル映像コンテンツの保護を目的にしており、本機と接続する機器も HDCP に対応している必要があります。HDCP に対応しているテレビ／モニターなどと接続してください。また接続する機器の取扱説明書をご確認のうえご使用ください。

その他

仕様

FM チューナー部

周波数範囲.. 76.0—90.0 MHz
実用感度（IHF 16.4dBf）................................ 1.8 µV
S/N比（モノラル／ステレオ）.................75/70 dB
歪み（モノラル／ステレオ）..................... 0.2/0.3 %
ステレオセパレーション.....................1 kHz 45 dB
実効選択度......................................±300 kHz 60dB
イメージ妨害比.................................83 MHz 60dB
チューナー出力レベル（1 kHz, ±75 kHz Dev）
....500 mV

AM チューナー部

周波数範囲..531—1602 kHz
実用感度（Loop Antenna）..................... 400 µV/m
S/N比 ....50 dB
歪み ....400 Hz, 30 % Mod. 0.5 %
実効選択度..±18 kHz 70 dB

オーディオ部

定格出力（20 Hz – 20 kHz / THD=0.08 %　8Ω）
フロントL/R .... 50 W / Ch
センター... 50 W / Ch
サラウンドL/R .... 50 W / Ch
サラウンドバックL/R........................... 50 W / Ch

実用最大出力（1 kHz　6Ω JEITA）
フロントL/R .... 75 W / Ch
センター... 75 W / Ch
サラウンドL/R .... 75 W / Ch
サラウンドバックL/R........................... 75 W / Ch

入力感度／インピーダンス........... 180 mV/47 kΩ
S/N比（アナログ入力／ソースダイレクト）.... 105 dB
周波数特性
（アナログ入力／ソースダイレクト）
................................8 Hz – 100 kHz（± 3 dB）
（デジタル入力／96 kHz PCM）
..................................8 Hz – 45 kHz（± 3 dB）

ビデオ部

信号方式..NTSC
入力·出力インピーダンス.................................75 Ω
入出力レベル... 1 Vp-p
S/N比 .... 60 dB
周波数特性（ビデオ）
....5 Hz—8 MHz（—1dB）
周波数特性（コンポーネントVideo）
.... 5 Hz—80 MHz（—3dB）

HDMI

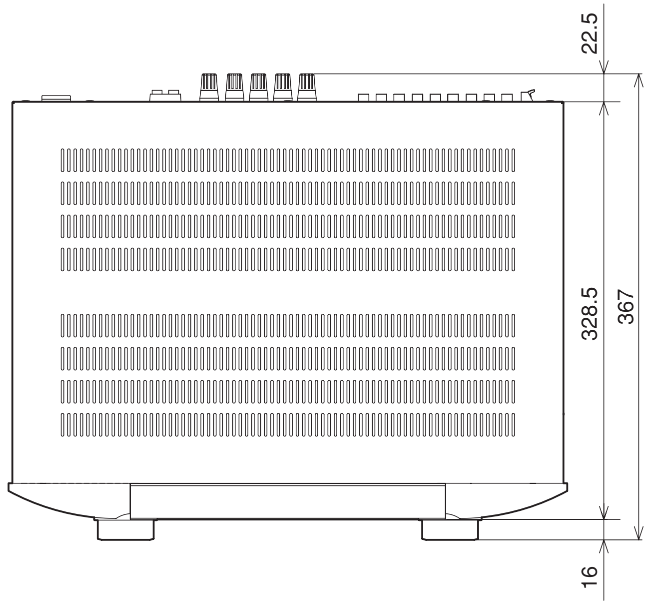
バージョン.. 1.3a［入力］
.... 1.3a［出力］

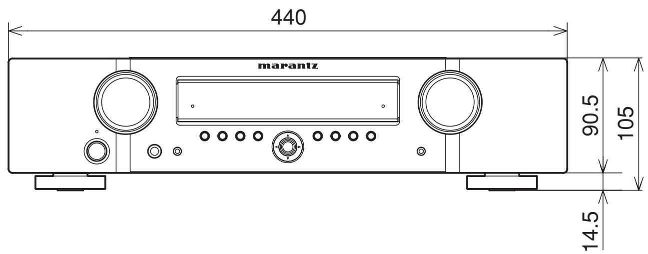
総合

電源電圧.................................. AC 100 V 50/60 Hz
消費電力（電気用品安全法による）.............. 250 W
スタンバイ消費電力...0.5 W

外観寸法図

（単位：mm）





重量：8.6 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お手入れ

- 本機が汚れたときはやわらかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときはやわらかい布に食器用洗剤を5〜6倍にうすめた液を浸し、固く絞ってから汚れをふきとってください。その後、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。
  また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



ヘッドホンのご使用について

ヘッドホン使用時は音量を上げすぎないようご注意ください。大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より１年間です。お買い上げ販売店又は弊社営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」致します。
3. 保証期間経過後の修理について。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低８年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または当社サービスセンターに遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度"困ったときは"をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）品名　**AV サラウンドレシーバー**
2）品番　**NR1501**
3）シリアルナンバー（製造番号）
4）お買い上げ日　年　月　日
5）故障の状況（できるだけ具体的に）
6）ご住所
7）お名前
8）電話番号

その他

セットアップコード

テレビ(ソースボタン名：TV)

Acer	1141
Admiral	1002, 1009, 1089
Aiko	1059
Aiwa	1117, 1118
Akai	1001
Amtron	1023
Anam	1113
Anam National	1023, 1069, 1092
AOC	1003, 1024, 1049, 1127
Audiovox	1023
Bell & Howell	1009, 1025
Benq	1104, 1142
Broksonic	1003, 1097, 1098, 1113
Celebrity	1001
Citizen	1003, 1013, 1023, 1026, 1059, 1063
Colortyme	1003, 1043
Contec	1113
Contec/Cony	1023, 1045, 1047
Craig	1020, 1022, 1023, 1113
Crown	1023, 1067
Curtis Mathes	1003, 1013, 1025, 1026, 1062, 1103, 1110
Daewoo	1003, 1013, 1024, 1035, 1036, 1059, 1084, 1101
Daytron	1003, 1013, 1016
Dimensia	1103, 1110
Dumont	1003, 1010, 1153
Electroband	1001
Electrohome	1001, 1003, 1069, 1133
Emerson	1003, 1013, 1015, 1020, 1021, 1022, 1023, 1025, 1038, 1044, 1045, 1048, 1055, 1061, 1094, 1096, 1099, 1101, 1113
Envision	1003
Fisher	1025, 1051, 1091, 1160
Fujitsu	1038, 1124, 1125, 1155
Funai	1023, 1038, 1113
Gateway	1150
GE	1003, 1018, 1022, 1046, 1054, 1069, 1085, 1103, 1110, 1113, 1133, 1136, 1153
Goldstar	1003, 1013, 1024, 1030, 1045, 1080, 1100, 1112, 1154
Hallmark	1003
Hisense	1116
Hitachi	1003, 1012, 1031, 1032, 1037, 1041, 1045, 1047, 1065, 1068, 1082, 1088, 1094, 1139, 1140, 1145, 1159
Infinity	1067
Janeil	1134
JBL	1067
JC Penney	1003, 1013, 1018, 1019, 1024, 1026, 1046, 1047, 1054, 1063, 1083, 1085, 1100, 1103, 1110, 1112, 1133, 1154
Jensen	1003
JVC	1028, 1029, 1045, 1047, 1050, 1060, 1065
Kawasho	1001, 1003
Kenwood	1003
Kloss Novabeam	1023, 1056, 1057, 1134
KTV	1013, 1023, 1033, 1034, 1073, 1099, 1113
LG	1024, 1030
M.Wards	1002, 1009, 1038
Magnavox	1003, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1081, 1106
Marantz	1003, 1031, 1067, 1122
Mitsubishi	1003, 1024, 1051, 1115, 1122, 1133
Motorola	1014, 1069
NEC	1003, 1012, 1024, 1043, 1069
NET-TV	1137, 1150
Orion	1020, 1096
Panasonic	1017, 1067, 1069, 1095, 1111
Philips	1003, 1011, 1045, 1052, 1054, 1056, 1057, 1058, 1063, 1067, 1069, 1106
Pioneer	1003, 1018, 1037, 1070, 1071, 1094, 1145, 1147, 1149
Plasmsync	1135
Portland	1003, 1013, 1024, 1059
Price Club	1026
Prism	1018
Proscan	1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1085, 1103, 1110
Proton	1003, 1045
Quasar	1010, 1069, 1073, 1111, 1153
Radio Shack	1003, 1013, 1015, 1023, 1024, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110, 1113
RCA	1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1014, 1024, 1049, 1069, 1075, 1079, 1085, 1087, 1088, 1093, 1094, 1101, 1103, 1110, 1113, 1153
Realistic	1103
Runco	1010, 1153
Sampo	1150
Samsung	1003, 1013, 1024, 1026, 1040, 1045, 1062, 1078, 1083, 1090, 1100, 1105, 1114, 1120, 1121, 1146, 1148, 1157
Sansui	1119
Sanyo	1003, 1025, 1051, 1072, 1077, 1091, 1156, 1157, 1158
Sharp	1003, 1013, 1014, 1015, 1045, 1055, 1064, 1066, 1076, 1089, 1123
Signature	1009
Sony	1001, 1102, 1108
Soundesign	1003, 1023, 1038, 1063, 1113
Starlite	1023
Supre-Macy	1134
Sylvania	1003, 1039, 1042, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1089, 1151
Symphonic	1023, 1039, 1044
Tandy	1014
Tatung	1069
Technics	1018
Techwood	1003, 1018
Teknika	1003, 1009, 1013, 1023, 1024, 1026, 1038, 1045, 1047, 1059, 1063, 1111, 1113
Telecaption	1074
Toshiba	1003, 1019, 1025, 1026, 1042, 1074, 1098, 1107, 1111, 1135, 1136
Totevision	1013
Universal	1046, 1054
Video Concepts	1113
Viewsonic	1006, 1022, 1109, 1128, 1129, 1130, 1131, 1138, 1143, 1145, 1150
Wards	1003, 1009, 1015, 1024, 1038, 1044, 1046, 1052, 1054, 1056, 1057, 1067, 1086, 1103, 1110
White Westinghouse	1001, 1101
Yamaha	1003, 1024
Zenith	1003, 1009, 1010, 1132, 1144, 1153

CD プレーヤー(ソースボタン名：CD)

AIWA	3001, 3002, 3003
AKAI	3004, 3005, 3006
AUDIO	3007
AUDIO LABS	3008
CALIFORNIA	3008
CARVER	3009, 3010, 3011
CASIO	3012, 3020
CURTIS	3012, 3020
DENON	3013
EMERSON	3014
FISHER	3011, 3015, 3016, 3017, 3018
GE	3019
GENEXXA	3014, 3020, 3021
HARMON	3022, 3023, 3051
HITACHI	3020
INKEL	3024
JC PENNEY	3012, 3020, 3025
JVC	3026, 3027
KARDON	3022, 3023, 3051
KENWOOD	3028, 3029, 3030, 3031, 3032, 3033
KRELL	3010
LUXMAN	3035, 3036, 3037, 3038
LX I	3012, 3014, 3020
MAGNAVOX	3010, 3039, 3040

MARANTZ	3010, 3041, 3042, 3043
MATHES	3012, 3020
MCS	3012, 3020
MGA	3023
MISSION	3010
MITSUBISHI	3023, 3044
NAD	3034, 3045
NAKAMICHI	3046, 3047, 3048
NEC MCS	3025
NIKKO	3007, 3016
ONKYO	3049, 3050, 3051, 3052, 3055, 3102, 3103
OPTIMUS	3011, 3014, 3020, 3028, 3053, 3054, 3056, 3057, 3058, 3059
PANASONIC	3008, 3060, 3061
PHILIPS	3009, 3040
PIONEER	3020, 3021, 3062, 3063, 3064
QUASAR	3008
RCA	3011, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
REALISTIC	3011, 3014, 3020, 3042, 3054, 3057
ROTEL	3010
RS ORIGINAL	3070
SAE	3010, 3083
SAMSUNG	3071
SANSUI	3014, 3068, 3072, 3073
SANYO	3011, 3018, 3074, 3075, 3076
SCOTT	3014
SEARS	3012, 3014, 3020, 3028, 3042
SHARP	3028, 3042, 3077
SHERWOOD	3024, 3042, 3056, 3070, 3078
SHURE	3025
SONY	3039, 3079, 3080, 3081, 3082, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101
SYLVANIA	3010
SYMPHONIC	3083
TEAC	3016, 3042, 3057, 3083, 3084, 3085, 3086
TECHNICA	3007, 3008, 3061, 3087, 3088
THETA DIGITAL	3040
TOSHIBA	3045
VICTOR	3026
YAMAHA	3007, 3089, 3090, 3091, 3092
ZENITH	3016, 3093, 3094, 3095, 3096

DVD プレーヤー（ソースボタン名：DVD）

Aiwa	2036, 2037
Apex	2012, 2017, 2018, 2019, 2021, 2034
BOSE	2038, 2039, 2063
Denon	2047, 2048
Funai	2049
GE	2009, 2020, 2029, 2033
Harman Kardon	2061
Hitachi	2008, 2012, 2031
JVC	2006, 2010, 2040, 2041, 2042, 2043
Kenwood	2053, 2054
Koss	2058
Magnavox	2007, 2011, 2023, 2025
Marantz	2025, 2065
Mitsubishi	2011, 2015
Onkyo	2062
Oritron	2009, 2030
Panasonic	2003, 2015, 2016, 2055
Philips	2007, 2011, 2058
Pioneer	2002, 2014, 2056
Proscan	2009, 2020, 2032
RCA	2005, 2009, 2020, 2035, 2057
Sampo	2041
Samsung	2008, 2012, 2022, 2024, 2027
Sanyo	2050, 2052
Sharp	2044, 2045
Sherwood	2051
Sony	2001, 2013, 2059
Toshiba	2004, 2008, 2026, 2028
Yamaha	2046, 2060
Zenith	2010

衛星放送チューナー（ソースボタン名：DSS）

Alphastar	4027
Amstrad	4046, 4047, 4050
Atsky	4048
B Sky B	4021, 4045, 4046
Chaparral	4039
DIRECTV	4001, 4016, 4044
DISH Network	4030
Drake	4026
Echostar	4007, 4017, 4018, 4019, 4020, 4062, 4063, 4064
Eurosky	4047, 4056
Express Vu	4017
Foxtel	4051
Freesat	4056
Fujitsu	4025
GE	4002, 4008, 4009
General Instruments	4036, 4037
Gradiente	4044, 4057
Hitachi	4001, 4015
Hughes	4001, 4016
Humax	4049, 4050, 4051, 4052, 4053
Janeil	4025
JVC	4001, 4017
Mitsubishi	4001, 4016
Nokia	4058, 4059, 4060, 4061
Optima	4048
Panasonic	4004, 4010
Philips	4031, 4035, 4044, 4057
Proscan	4002, 4008, 4009, 4011
Radio Shack	4036, 4037
RCA	4002, 4008, 4009, 4029
Realistic	4040
Rural Cable	4036
Samsung	4022, 4027, 4042, 4043, 4050, 4054, 4055
Schneider	4041, 4043
SKY	4044, 4045, 4057
Skyplus	4048
Skysat	4041, 4047, 4056
Sony	4003, 4012, 4014, 4065, 4066, 4067
Star Choice	4032
Star Trak	4024
STS	4038
SuperDish	4028
Teac	4049
Thomson	4046, 4056
Toshiba	4001, 4034
Uniden	4005, 4006, 4013
Universum	4056
Video Pall	4025
Zenith	4023, 4025, 4033

ブルーレイディスクプレーヤー（ソースボタン名：BD）

Denon	5034, 5035, 5036
Hitachi	5031, 5032, 5033
Integra	5013
JVC	5014, 5015, 5017, 5018, 5019, 5020
LG	5010, 5011
Marantz	5026, 5027
Mitsubishi	5024, 5025
Onkyo	5013
Panasonic	5001, 5002, 5003
Philips	5004
Pioneer	5005
RCA	5012
Samsung	5005
Sharp	5028, 5029, 5030
Sony	5007, 5008, 5009, 5016
Toshiba	5012
Yamaha	5021, 5022, 5023

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30－12：00　13：00－17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.jp

Printed in China

07/2009　541110291013M　mzh-d